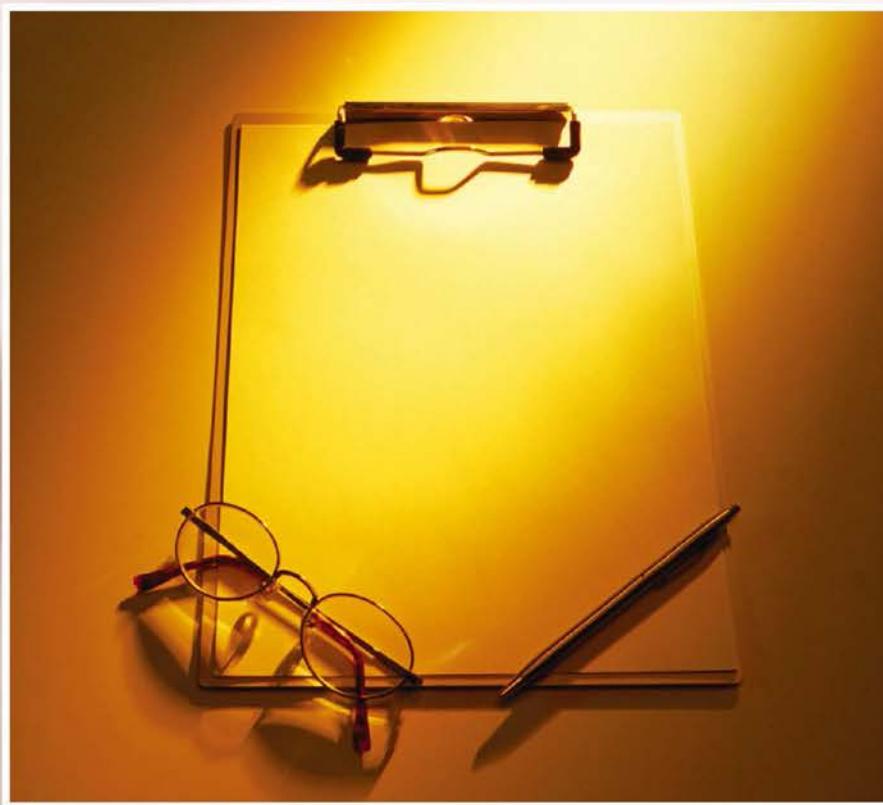


Passo a Passo



平成24年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

教 職 課 程
司書教諭課程
司 書 課 程
学 芸 員 課 程

Vol. 15

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、2009年、創立130年を迎えました。

専修大学は、1880年(明治13年)、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉学する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「**社会知性 (Socio-Intelligence) の開発**」を21世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。



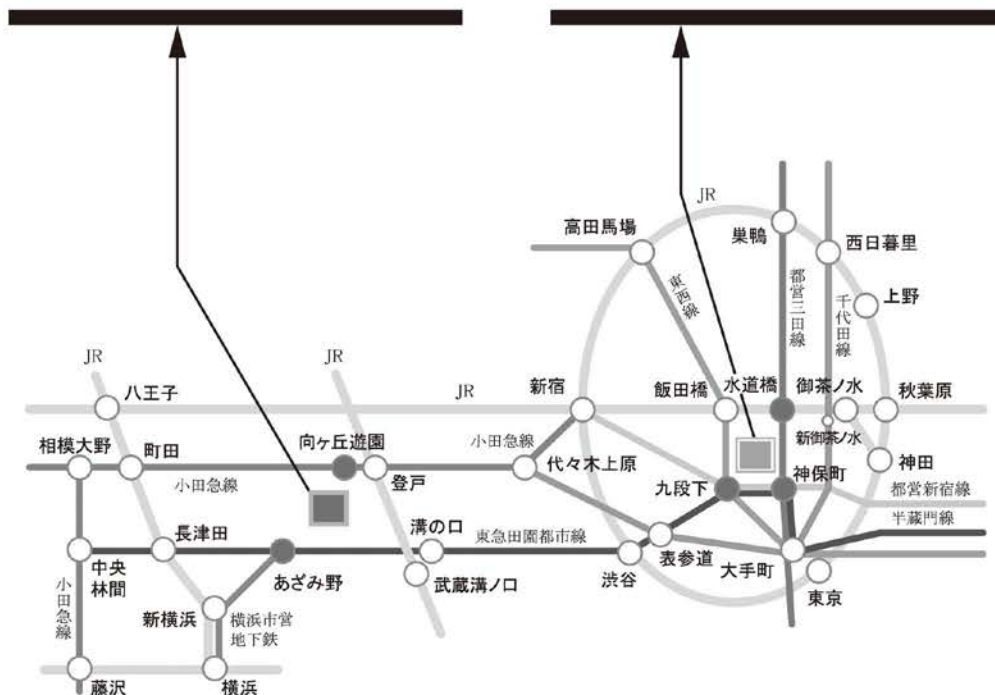
生田キャンパス

- 小田急線
向ヶ丘遊園駅(新宿から急行で約20分)
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス(学生専用)約20分



神田キャンパス

- JR 水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



資格とコミュニケーション

教職課程協議会委員長 経営学部 教授 内田 欽三

1991年のバブル経済の崩壊や、2008年のリーマン・ショックなどによって、我が国の経済は長らく低迷を余儀なくされている。しかも、昨今の欧州の通貨危機が、そこに拍車をかけているという。もっとも、新聞やテレビのニュースで伝えられる専門家のコメントは、素人の我々には、いささか理解し難い難解な内容だが、日々の暮らしの周辺に目を向ければ、不景気を実感することはたやすいだろう。商店街を覗けば、廉価な商品にはばかり人気集中し、新車が売れず、カー・ディーラーが悲鳴を上げ、かつてはデラックス志向を売り物にしていた観光地の宿泊施設も、のきなみプライス・ダウンのお手軽コースが大流行だ。リストラや派遣切りなど、少し前には社会的な大問題として取り上げられた世相すら、もはや当たり前になってしまったらしく、騒ぐ人も見かけなくなったではないか。

とはいえ、それほど寒風吹きすさぶ状況も、他人事のように感じられるのが、学生時代というものだろう。親に養われ、日々の糧をあくせく稼ぐ必要もない身にとって、不況などどこ吹く風、まさに対岸の火事に過ぎないのは、無理もないことかもしれない。しかし、大学も四年生となり、いよいよ就職を意識したとき、学生といえども、日本の経済がいかに苦しみ喘いでいるかを実感せざるを得ないはずだ。遥か昔、売り手市場と呼ばれた就職戦線が、いまや買い手市場に一変していると痛感すること、請け合いである。就職活動を開始して、何十社もの面接を受けながら、ただの一つも内定をもらえずに、文字通り路頭に迷う。ついには、フリーターとして、低賃金の気の進まない仕事で糊口をしのぐことになる。大袈裟でも作り話でもなく、ありふれた現実なのだ。

したがって、こうした厳しい状況への備えは、早ければ早いほど効果的だろう。大学の一年に入学したその日から、来るべき卒業の

日を見据えて、本気で実力を養うことが何より重要だと断言しておく。加えて各種の資格、たとえば教職、司書、司書教諭、学芸員などの資格を修得できれば鬼に金棒だ。くれぐれも、『日暮れて、道遠し』の後悔だけはしないように心掛けてもらいたい。



しかし、勘違いをしてはいけぬ。優良な成績や資格それ自体だけが、社会の評価の対象となるのではないし、それだけがバラ色の未来を約束してくれるわけではない。教職、司書、司書教諭、学芸員といった資格は、その専門的な内容や知識とともに、それらの専門業務を通して、広く様々な人々とコミュニケーションをとらなければならない立場でもある。言い換えれば、ふんだんに蓄積された専門知識と優れたコミュニケーション能力こそ、社会人に求められる資質にほかならない。初対面の人と、あるいは仕事関係の人と、スムーズに意思を疎通し合い、巧みに意見を交換し、同時に、人としての情感を礼儀正しく、かつ温かく交わし合うことができこそ、一人前の社会人なのだ。

最近、人と人の関わり方が希薄になったと言われる。隣近所との挨拶の習慣が消滅しつつあることは、その端的な現れと言えるかもしれない。自宅に閉じこもって、テレビゲームに終日没頭する学生も少なくないらしい。大学のトイレのボックスで食事をするという驚くべき実態も耳にした。地域社会の崩壊と、過度の成績偏重主義、拝金主義、利己主義などの風潮が、そうした人間の孤立を助長しているのだろう。健全な社会生活を送り、仕事で成果を上げ、有意義で幸福な人生を送るためにも、コミュニケーション能力を鍛えることが必要なのだ。資格課程で学ぶということは、そうしたコミュニケーションのトレーニングでもあると心得てもらいたい。

Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

新科目「教職実践演習」が始まる

経済学部 教授 矢吹 芳洋	6
---------------------	---

教職課程

卒業生から	10
教員採用試験体験記	14
教育実習を終えて	20
介護等の体験を終えて	27
あなたはどんな教師になりたいのか？ 経済学部 兼任講師 種藤 博	28
専修大学教育学会に出席して	30
教科研修生体験レポート	31
学校教育ボランティア体験レポート	32
専修大学附属高等学校から 目的から目を離さぬように 専修大学附属高等学校 教諭 間嶋 誠	33

司書・司書教諭課程

司書課程における新カリキュラムの概要 文学部 教授 荻原 幸子	36
図書館の現場から ― 大学図書館における展示会 音声ガイドを制作して ― 専修大学図書館 飯島 恵子	38
図書館実習を終えて	40

学芸員課程

教育普及活動から見た学芸員の職務 埼玉県立さきたま史跡の博物館 学芸員 岩松 大輔	42
博物館実習を終えて	44

データ編（平成24年度）

資格課程履修者数	48
教員免許状取得状況一覧	49
教育実習先一覧	50
図書館実習・博物館実習先一覧	53
主な就職先一覧（教職、司書・司書教諭、学芸員）	54
資格課程年間行事表	59
教職公開講座開催結果	60
司書課程就職（進路）懇談会開催結果	61
資格課程教員紹介	62
編集後記	

■4つの資格課程

教職課程 … 中・高の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者に要求される教育職員免許状を取得させるためのものであり、教員を養成することを目的としています。加えて、平成10年より「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(介護等の体験法)が施行され、中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者には、介護等体験が義務付けられています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	地理歴史、公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本語学科	国語	国語
	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
	人文・ジャーナリズム学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民

※「教員免許更新制講習」(免許状更新講習)

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。本学では、免許状更新講習を夏休休暇中に実施しています。

司書教諭課程 … 学校図書館の専門職

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な仕事に携わる教員のことです。司書教諭は教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、児童・生徒に対して図書館利用や読書に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は教育職員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する者は教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

2003年度からは12学級以上の規模の学校には必ず司書教諭を配置することになりました。そのため、教育の現場では司書教諭の有資格者へのニーズが高まっています。

司書課程 … 公共・大学図書館等の専門職

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、資料(図書、雑誌、DVD等)を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職のことです。

司書の資格を取得するには、司書課程を履修する必要があります。

司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、急速に普及している電子メディア(インターネットなど)の活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す
あなたへ

教職課程

本が好き
図書館で働きたいなら



司書課程・司書教諭課程

博物館・美術館で
働きたいなら



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイドンス

1～4年次
教職課程履修登録
4月上旬

3・4年次
介護等の体験
(中学校教諭免許取得希望者)
5月下旬～3月上旬

4年次
教育実習
5月～11月

卒業時（事前に申請した者）
教員免許状の交付
3月

1～4年次
司書課程履修登録
4月上旬

4年次
図書館実習
(希望者)
8月～11月

卒業後（希望者）
司書課程単位
修得証明書の
申請および交付

1～4年次
司書教諭課程
履修登録
4月上旬

卒業後（事前に申請した者）
学校図書館
司書教諭講習修了証書
の交付

1～4年次
学芸員課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
博物館実習
(館務実習)
7月～9月

卒業時（事前に申請した者）
学芸員資格取得証明書
3月

司書・司書教諭課程サポート

学校図書館見学会 7月開催

司書教諭課程受講学生を対象
として、学校図書館見学会を実
施しています。

司書課程就職（進路）懇談会 12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、
図書館関連の就職や大学院進学に
ついて懇談をしています。

学芸員課程サポート

文化財セミナーを開催

平成20年10月に専
修大学130周年記念文
化財セミナー「発想転換」
を開催しました。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、これまで小学校教諭の免許状取得の道はありませんでした。ニーズの高まりに応えるため、玉川大学と連携し、2007年度より小学校教員養成特別プログラムをスタートさせました。本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすものです。ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

※商学部会計学科は除きます。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教職をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校で、教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、川崎市を中心に7校と連携し、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる貴重な制度です。原則として3・4年生、大学院生、本学出身の科目等履修生が対象となります。

教員採用試験対策講座(エクステンションセンター主催講座) ガイダンス:4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいかわからず戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開設しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1年間を通じた計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

新科目「教職実践演習」が始まる

経済学部 教授 矢吹 芳洋

1. 教員免許状が変わる

免許制度が大きく変わろうとしている。中央教育審議会が、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（2012年8月）という答申を出した。その主なねらいは、これまでの2種(短大卒)・1種(大卒)・専修(大学院修士修了)免許状を、いずれも仮称であるが、基礎・一般・専門免許状に変更することにある。基礎免許状は大卒レベルで、教科や教職に関する基礎的な知識・技能を、一般免許状は1～2年程度の修士レベル、すなわち教職大学院または一般大学院修士課程修了、あるいはこれらに類する学修プログラムにより、教科や教職に関する高度な専門性を、専門免許状は大学院修士レベルあるいは国及び教育委員会の実施する研修により、学校経営や生徒指導等の特定の分野の高い専門性をそれぞれ保証する。そして大学院修士レベルを教員免許の中心に据える、というものである。もちろん基礎免許状でも採用選考試験の受験は可能であるが、採用後に一般免許状の取得が求められ、採用でも一般及び専門免許状の取得者を有利に扱うとしている。この改革は、社会が高度化し課題が複雑化する中で、教員を高度専門職業人として位置づけ、その地位を確立するために行われるとしている。

1990年代末から、経済協力開発機構（OECD）により、グローバル化時代に求められる学力について国際的な学力調査が実施されてきた。いわゆるPISA調査（学習到達度調査）は、わが国の教育政策にも多大な影響を与えている。調査のたびに低下する順位に

ショックを受け、常に上位にあるフィンランド教育の成功の要因を探ってきた。同国の全教員が大学院修士課程修了以上であることから、これを成功の一要因と捉え、導入しようとするのが今回の答申である*。

今の免許制度改革は、もう少し前から行われてきた。さかのぼれば、2006（平成18）年に出された中央教育審議会答申「今後の教員養成免許制度の在り方について」にたどり着く。この答申は、教員免許更新制の導入、教職大学院制度の創設、教職課程の質的水準の向上の3つの柱からなっていた。教職大学院は2008（平成20）年度から、更新制は2009（平成21）年度からすでに実施されている。そして教職課程の質的水準の向上策の一つが、新科目「教職実践演習」の設置である。

教職履修者にとって、教員免許制度の変更はもちろん重要である。しかし、もう一つの新科目「教職実践演習」についても知っておく必要がある。そこで、以下、2013（平成25）年度より実施される新科目「教職実践演習」について、設置の背景、概要、実施上の課題を簡単に記し、履修への一助としたい。

2. 「教職実践演習」設置の背景と求められる内容

「教職実践演習」設置の背景には、社会構造の大きな変化がある。グローバル化、知識基盤型社会の到来、情報化、高学歴化など、急激かつ大きく変化する社会にあって、これに対応できる学校教育と、それを担う教員の資質能力の向上が不可欠である。教員にとっ

て、使命感、成長発達に対する理解、教育的愛情、専門的知識、実践的指導力などの資質や能力はいつの時代にも求められるが、急激に社会が変化する時代には、地球的視野に立ち行動できる力、得意分野を持つ豊かな個性、総合的人間力、対人的関係の能力、他の教職員と協力する力なども欠かすことはできない。これらの力を同時に育成することが必要といわれている。

「教職実践演習」は、教職課程の総仕上げとなる。4年生後期、2単位必修科目として設置される。これが修得できなければ教員免許は得られない。科目設置の趣旨は、次の2つである。教職課程で履修した科目とボランティア活動などの教職課程外活動を通じて身に付けたものが、教員として求められる最小限度の資質や能力となっているか各大学がめざす教育目標や教員像に照らし最終的に確認することと、将来、教員になる上で自分の課題は何かを自覚し必要に応じて不足する知識や技能を補うことで教員生活を円滑にスタートできるようにすることである。

この科目は、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や学級経営に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項の4つが含まれていなければならない。その他、求められる資質能力の有無や履修者の教職適性については、担当教員だけでなく複数教員が「教職カルテ」を参考にしながら判断する。

科目の特色は、大きく2つあ

る。一つは、学校現場や教育委員会との連携・協力による科目の企画・立案・実施である。もう一つは、実践的な授業内容・方法である。実践的な授業内容として、学校現場の視点を取り入れた内容構成が求められる。学級経営案の作成、いじめや不登校の指導、学級集団をまとめる手法の獲得、子どもの反応を活かした授業づくりなどである。また授業形式として、ロールプレイング（いじめ、不登校などの場面指導）、グループ討論、実技指導、実務実習、事例研究、フィールドワーク（学校訪問と調査活動）、模擬授業の実施が求められる。

3. 本学の「教職実践演習」の内容と特色

本学も実施に向け情報収集に当たってきた。本学の「教職実践演習」は、先の答申を踏まえつつ、特色も出している。それは次の2つである。

第一に、教職公開講座との連携である。この講座は、教職を目指す学生の教員採用試験対策として行われてきた。20年以上の歴史があり、毎年100名前後の出席者がいる。大きく2つの内容で構成される。直近の教員採用選考試験合格者の試験体験談や学校現場の状況に関する話と、さらに校長経験者や教育委員会関係者による「求められる教師像」についての話である。これへの出席を義務化し、教師の役割や責務などを学んでもらう。

第二に、専修大学教育学会大会との連携である。専修大学教育学会は、本学を卒業した小中高大の教員の研究会である。資質の向上

と親睦を目的に、毎年11月23日の勤労感謝の日に研究大会が開催されている。数年前から、在校生も準会員として参加が許可されてきた。この大会への出席を義務化し、現場の先生方との研究交流を図り、かつご指導いただくというものである。

教職公開講座及び専修大学教育学会大会との連携は、現職教員との交流を通じて履修者を現場に近づけ、現場の視点から教職について考えさせる方策である。

4. 実施上の課題

「教職実践演習」の実施には、課題も少なくない。

第一に、教員免許の取得のみを目的とする学生との関係である。教職課程担当の教員は、新入生ガイダンスにおいて必ず教職履修の意図を問い、修得の厳しさを説く。本気でないなら、履修を考え直した方が良いと。しかし就職状況が厳しい中、対応策としての教員免許取得を責めることばかりもできない。その結果、本気の履修者とした履修者間の温度差はどうしても出てざるをえず、授業運営上の支障にもなりかねない。

第二に、就職活動との関連である。2008年のリーマン・ショック以降、就職状況は依然として厳しい。近い将来、この状況が改善することは考えにくい。これまで多くは5月の大型連休前に内定を得ていたが、

今では卒業まで就職活動を続ける学生も増えてきている。教職履修者にもそのような学生が出てくれば、出席が危ぶまれる。教員採用状況が厳しい中、本気でない者は諦めろと言い切るのは簡単ではない。

この他にも課題は多々あるが、残念ながら、紙幅の関係上、これ以上言及できない。いずれにせよ、課題を抱えつつも、2013（平成25）年度後期より実施される。新科目の趣旨が履修者に十分伝わり、ねらいが実現できるようにしていかなければならない。

* 昨年12月の総選挙の結果、民主党から自由民主党に政権が移り、教育政策も大きく変わる可能性がある。これに伴い、教員免許修士レベル化の動きも流動的となっていることに触れておかなければならない。

<参考資料>

- ・中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申 2012（平成24）年8月28日。
- ・中央教育審議会「今後の教員養成免許制度の在り方について」答申 2006（平成18）年7月11日
- ・同上答申 別添1



OECD 本部前にて



教職課程



卒業生から（国語）

私立淑徳巣鴨中学・高等学校 特任教員 伊東 明希（平成18年度文学部日本語日本文学科日本語学専攻卒業）

教員の採用試験において、必ず聞かれる質問というのが志望動機です。「なぜあなたは教員になろうと思ったのですか」。私はこれまで自分の学生時代の経験などをふまえ、「担任の先生にあこがれていたから」や、教育実習の経験を語って「改めて教員の仕事の魅力に気づいたからです」と答えていました。いずれも本当です。しかし、私は学校現場で実際に働く中である目標を見つけることができました。

私は、淑徳巣鴨中学高等学校で五年間講師をしていました。そして六年目の今年の春から特任教員として新たに採用されました。五年間の講師生活とはどういったものだったか。大学を卒業してすぐに「先生」デビューした私は、教科指導としての授業に悪戦苦闘しました。「一時間の授業準備はその三倍の時間を要する」と教育実習で教わった私は、毎日教材研究に打ち込みました。特に私の勤める学校では、国語という教科は現・古・漢を教えられなければなりません。大学を卒業して高校生以来となる古文・漢文の勉強は本当に辛いものでしたが、「生徒に教える」となると自身のモチベーションが向上し一生懸命になれるものでした。その他に講師といえども、長期休暇中の講座や定期テスト作成などたくさんの業務があります。講師の仕事は教科指導がほとんどです。私はこの五年間で、幸運にも中学一年生から高校三年生までのすべての学年の指導に携わることができ、様々な経験をしました。一言で「教科指導」といっても学年・クラスでその指導は全く異なります。比較的時間に余裕にある講師であった時にこれらの経験を積むことができたのは良かったと思います。

そして私は五年という長い講師生活の中で、次第に教科指導だけではなく、「人間教育がしたい」と考えるようになりました。それはある時、「伊東先生はどうして学校で先生をやっているの」と先輩の先生に聞かれたことがきっかけです。私はその時はっと思い、すぐにはうまく答えられなかったのです。どうして「学校」という場所を選び私はここに

いるのか。そうだ、私は「人間教育」がしたいのだと思いました。中学・高校で何を学ぶのか。学校とは進学のための勉強だけではなく、私は高校を卒業した後の「社会で生きていく力」を身につけていくための場でもあると思いました。そうであるならば私は生徒たちに様々な事を学ばせたい、説いていきたいと思うようになったのです。

今年度、私は高校二年生の学年所属として配属されました。校務分掌・部活動・学校行事と役割が増えて、毎日の時間があっという間に過ぎてしまいます。ただこれまでとは違い、その忙しさの中にも生徒と接する時間は格段に増えました。授業時間以外にみる生徒の姿というのは本当に刺激的なものです。生徒の発想力と行動力にはいつも感嘆させられます。人間教育という面では、私がいつも注意していることがあります。指導に際して、どうして自分が今注意されているのか気付かせる事です。原因があって教員が指導しているということを生徒に納得させることも大切だと思います。そうした一つ一つの積み重ねがお互いの信頼関係に結びつき、指導が成り立つものなのだと思います。

教員を目指す学生のみなさん、様々な経験をしてください。学校にはいろんな生徒がいます。多様な考えを持った生徒がいます。その一人一人の個性を受け止めて、認めてあげることもまた教師の大切な役割であると思います。

私は学校という場所が大好きです。生徒にもそうであってほしいと思います。自分のその思いだけで、数多くの困難もたくさん乗り越えていけると 생각합니다。



書道部の生徒たち

卒業生から (数学)

数学科教員を目指すみなさんへ

埼玉県立南稜高等学校 教諭 川道 瞬 (平成21年度ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科卒業)

私は現在埼玉県戸田市にある県立南稜高等学校で、数学科の臨時的任用教諭として勤務しています。臨時的任用なので、他の先生方のように採用試験に合格し、正採用として勤務している身ではありません。ですが教員としての自覚と誇りを持って職務にあたり、生徒の成長に寄与していく点は、正採用でも臨時的任用でも変わらないと思います。どこまで皆さんの参考になるかは分かりませんが、私が3年間の臨任生活で経験し、大切だと感じたことをお伝えできればと思います。

まず1つめは、常に自分自身を磨き、高めていく意識がないといけないということです。正直に言って、教員の仕事は手を抜こうと思えばいくらでも抜ける部分があると思います。たとえば、教科指導では同じ内容を何度も教えることになるので、極端な話一度教材を作ってしまうと、それを何十年も使って授業をすることもできるでしょう。しかし、教えられる側の生徒は性格、学力など様々で、一人として同じということはありません。ひとつの教え方に拘り変化に対応できないままでは、指導が合わない生徒が出てきた場合に、その生徒の成長の機会を潰してしまう事にもなると思います。授業をやっている自分自身も、同じことの繰り返しでつまらなくなってくるはずです。教員がつまらないと感じる授業を、生徒が集中して取り組めるはずがありません。生徒のためにも自分のためにも、指導の引き出しをどんどん増やしていくことが大切だと思います。成功と失敗の体験を反省し、専門知識をさらに深める、生徒へのアプローチの仕方を変えるなど現状に満足することなく、より良い指導を追求し努力を惜しまないことが重要だと思います。

2つめは教員としての自覚と責任を持つということです。教員は、これからの日本を担っていく子供たちを預かっているととても責任ある立場にいます。常にこのことを頭の中に入れ、普段の生活を送らなければならないと思います。生徒の見本となるよう、率先垂

範を心がけ、自律していくことが求められるのではないのでしょうか。普段からだらしない姿を生徒に見せていけば、不信感が募り指導にも従わなくなります。自分ではごみも拾わない、毎日授業時間ギリギリに来るような先生に、掃除をしっかりとやれ、遅刻はするなと言われても何の説得力もありません。逆に、他人に見えない所でもごみを拾ったり、授業時間の5分前に来たりするような先生が言えば、生徒への説得力もあるのではないのでしょうか。またみなさんも知っているように、最近では教員の不祥事による事件・事故も絶えません。事件・事故を起こしてしまった全員がそうであるとは言いませんが、中には責任ある立場であることを忘れ、自己の欲望に流されてしまったケースもあると思います。そんな先生の姿を見た生徒はどう感じるのでしょうか。これも教員に対する不信感が募り、信頼関係が崩れていく要因になります。学校の内外問わず、自分に厳しく、羽目を外し過ぎないように律していくことが大切だと思います。

複雑に発達した現代社会では、教育に求められるもの、教員に求められるものが非常に多く、また高度になっていると思います。1:9くらいの割合で、楽しい日よりも、辛く困難な日の方が多いでしょう。でも、その1の楽しいことが9の辛いことを吹き飛ばしてくれます。「数学が少し好きになった！先生ありがとう！」これだけで全てが報われます。是非みなさんもこの喜びを体験し、自分なりの教育を展開してってください。



卒業生から（小学校）

安心して学べる学級を目指して

厚木市立戸室小学校 教諭 清野 光章（平成20年度経済学部経済学科卒業）

「遊ぶ時は誰よりも楽しみ、学ぶ時は誰よりも真剣に」私が教員として心掛けていることであり、子どもたちに伝えている言葉です。私は、子どもたちが安心して生活し、安心して学べる学級をつくりたいと考えています。教員自身が何事にも全力で向き合う姿勢を見せ、子どもたちに生きる喜びを伝えていきたい。「学校へ行くのが楽しみ」そんな気持ちを抱かせるため、日々努力を重ねています。

次に、子どもたちが安心して学べる学級を目指し取り組んでいることについて2つ紹介します。



演劇発表を通して一致団結

○一人一人の良さを認める

学校生活の中で自信をもって取り組める活動があれば、その子に安心できる居場所を与えることにつながります。苦手を克服させることはとても大切です。しかし、その子が得意なことや当たり前に行えることに気づき、褒めることはそれ以上に大切なことなのです。私は、「帰りの会」では、子どもを褒めることを中心に話します。一日の生活で進んで友達を助けていた人、皆が見ていないところで努力していた人など、子どもの頑張りを認めます。褒められた子どもは同じことを進んで行い、褒められるポイントを知った子どもは真似してみる。そんな互いの良さを認め合えるクラスは、安心して満ちたクラスなのだと思います。また、子ども一人一人の変化を見つけるために朝の健康観察を工夫しています。名前を呼ぶ時に目と目を合わせる。声の大きさ、表情、手の挙げ方など、昨日との些細な変化に気づき、会話をするように体調をチェックする。変化に気づけることは、「先生は、自分のこと（友達のこと、クラスのこと）を、しっかり観てくれている（大切にしてくれている）」という信頼と安心を与えることにつながるのです。

○学級経営は授業で決まる

学校生活の半分以上が授業の時間です。子どもにとって学びある授業ができれば、学校へ行く楽しみも増えます。しかし、「周りの友達は分かっているのに、自分は全然分からない…」「間違えたら嫌だから発表したくない…」このように不安をかかえながら授業を受ける子どもは少なくありません。そこで、私は、クラス全員がわかる喜びを味わえる授業を目指し、授業研究に取り組んでいます。どの授業でも「一人思考→小グループでの意見交換→全体共有→実践的な活動」の流れを大切にします。まず、自分だけでじっくり考えさせる。4人組みになり意見交換をする。まとまった考えを全体に伝える。その考えを実際にやってみる。この流れにより、全員が授業に参加でき、自信をもって意見を発表する子どもが増えます。また、4人組で相談することで、友達の考えを参考にして自分の考えをまとめることができ、学習につまずく子どもも減ります。教員が話し過ぎ、子どもに考えさせる間もなく教え込む授業は避けたい。子どもの思考を働かせ、様々な経験をさせる場を提供するのが教員の役目だと考えています。

大学生時代に「教員は9割が苦労、1割が感動」と教わったのを覚えています。私が教壇に立ち、改めて感じたのは「9割が勉強（研究）、1割が感動」です。日々、同僚の先生方の授業から技を学び、児童指導の術を学ぶ。時代によって子どもたちの実態は変わり、その都度、指導の方法も変えなくてはならない。毎日が勉強です。ただ、勉強という努力を重ねれば重ねるほど、子どもたちがそれに応えてくれます。「毎日、一生懸命に授業を教えてくれてありがとう」教員の努力する姿勢は、必ず子どもたちの心に響きます。是非、子どもたちの勉強に負けないくらい、教員を目指す皆さんも学び続ける姿勢をもち続けてほしいです。



皆笑顔で終業式を迎えられた喜び

卒業生から（特別支援教育）

教えることは学ぶことである

鹿児島県立大島養護学校 教諭 小野 恭一（平成18年度文学部人文学科歴史学専攻卒業）

私は、現在、鹿児島県立大島養護学校の高等部に勤務している。もともと高校世界史の教員を志望して採用試験を受けたが、希望した高校地歴ではなく第2希望の特別支援学校での採用となった。正直なところ、採用の通知を受けて最初は嬉しさとともに戸惑いもあった。しかし、生徒が教師を選べないように教師も生徒を選ぶことはできないし、どの校種・学校であっても子どもたちのために教育の情熱を注ぐことが教師の本分である。高倍率で厳しい採用状況のなか職を与えてもらった以上、どんな困難があっても責任を持って子どもたちのために頑張ろう。私はそう覚悟を決め、教職人生をスタートさせた。



私は東京学芸大学大学院に在籍中、都内公立中学校の特別支援学級の介添員や、埼玉県私学で高校世界史の非常勤講師を経験したが、特別支援学校での教育活動は別世界のように感じた。1学級2人から8人の生徒に対して、担任は2人、副担1人が割り当てられ、全ての授業が教師複数名によるチームティーチングで行われる。また、日常生活の指導、作業学習、生活単元学習などといった教科等を合わせた指導、日常の生活に根差した国語や数学の教科指導をどの教員も担当しなければならないため、「私は地歴が専門だから…」といったものは通用しない。そのため、初任者研修（本県では1年目校外20日・校内170時間）だけでなく、教材研究や特別支援教育の勉強に追われる毎日である。授業は生徒の実態に合わせて進める。また、自作の教材・教具を準備するなど、基本的に教科書は存在しない。まさに特別支援教育が「教育

の原点」と呼ばれる所以である。十分な教材研究をしないまま授業に臨めば、生徒にとって何の学びも起きず、それは生徒の反応とともに教師へと跳ね返ってくる。教師として、生徒にとって学びのない授業ほど胸の痛くなるものはない。これは、どの校種であっても同じことが言える。

年間数百時間もの授業を行うなかで、満足のいく授業は1時間でもあっただろうか。私は授業後に毎回、実態把握の不十分さを痛感し、「進め方が生徒の実態に合わなかった」「こんな教材を準備すれば良かったな」と、反省する。そして、「自分は生徒にどんな力を付けることができただろうか。どんな学びの種を播けただろうか。」と、自問自答を繰り返す。満足のできる授業が少ないのは、初任者の私に限ったことではないようだ。私が尊敬するベテランの先輩教諭も皆同じことをおっしゃっていた。私は、1年間に一度だけでも生徒が分かる喜びを感じ、授業者の自分でも納得のいく授業ができればいいと思っている。そのためには教師自身が日々研鑽し、学び続けなければならないだろう。教師が学ぶ姿勢をなくしてしまえば、生徒が学ぶことなど到底できない。教育とは生き物のようなもので、生徒の実態は一人一人異なり、また一人の生徒も日々実態が変化していく。だからこそ、個々の生徒の実態をしっかり把握して、実態に対する手だてを考え、指導計画を組み立てていかなければならない。そして授業を実践し、その実践を検証・評価して、改善を図っていくのだ。

教育の世界は厳しい。しかし、それだけにやり甲斐や達成感を感じることができる。生徒の「できた」「分かった」という、小さくも大きな成長に立ち会えたときの喜びは、何ものにも代えがたい。これこそが教師の醍醐味であり、教師としての生き甲斐である。

さて、鹿児島県総合教育センターには、「教学一如」の碑がある。そこには、私が教師生活を通じて座右としたい言葉が刻まれている。教職を志す後輩たちに、それをメッセージとして締めくくりたい。

教えることは学ぶことである
学ぶことは 深く生きようと願うことである

教員採用試験体験記

平成23年度文学部日本語日本文学科日本文学文化専攻卒業 鈴木 大慈

私は、平成25年度東京都公立学校教員採用試験に合格することが出来ました。昨年度、そして今年度の二度受験したので、それぞれどのように過ごしていたのかについてここに書いていきたいと思います。

まず、昨年度の採用試験についてです。東京都は一次試験が専門教養と教職教養、小論文の三科目でした。最初に取り組んだのは教職教養の過去問研究です。私は勉強が好きではありません。そこで、東京都はどのような問題が多く出て、逆に何があまり出ないのかを把握することで、効率的に勉強しようと思いました。その結果「教育法規の占める割合が最も高い。」「穴埋め問題は出ない。」など、いくつかの特徴がわかりました。その後の試験勉強では、教育法規を徹底して覚えましたが、勉強方法はいくつもあるかと思いますが、私は「一日〇時間は絶対に勉強する!」といった方法に取り組み、そしてすぐに挫折しました。そこで、移動時間や入浴中などの何気ない時間に意識的に勉強するようにしました。これだけで毎日二〜三時間程度の勉強時間は確保出来ました。勉強時間のほとんどを教育法規に費やし、他の科目は飽きた時のリフレッシュとして取り組み、また、全く取り組まない科目もありました。専門教養は一から勉強し直すというよりも過去問を繰り返し解くことで問題に慣れていきました。小論文はいくつかの問題を想定し、それに対して軸となる考えを短い文章で書いていました。本番では、これに肉付けして字数を調整しましたが、時間内に書くことはやはり大変で、何回かは本番と同じ字数を実際に書いてみて、慣れていくことが必要だと感じました。この経験から、一次試験の対策としては「過去問研究」と「試験科目の優先順位付け」が大切になるかと思っています。

二次試験は集団と個人の面接でした。集団面接は無難に終わりましたが、個人面接は完

全に失敗でした。その理由として「①事前に対策をとらずに臨んだこと。②自治体の求めている教員像と私が目指していたものがかけ離れていたこと。」の二点が挙げられます。教員採用試験も就職活動と同じで、相手がどのような人材を求めている、そこに対しての自身の意識など、しっかりと準備していくことが大切だと痛感しました。

試験の結果は期限付任用教員でした。これは補欠合格のようなものです。運よく自治体から声がかかれば一年間は臨時の教員として働けますが、声がかからなければフリーターでいなければなりません。私の場合は四月に入ってすぐに教育委員会から連絡が来て、翌日に集団面接を行い、終わった二時間後に合格が伝えられました。その足で学校に挨拶に行き、面接の翌日から実際に勤務するといったものでした。急な日程ではありましたが、フリーターを覚悟していた私にとっては大変だとは感じませんでした。それよりも、これから実際に学校で働くことが出来るという喜びの方が遥かに大きかったのを今でも覚えています。

今年度の採用試験は、臨時教員として働いている特例で個人面接のみでした。今回は前回の反省を活かし、勤務校の校長に何回も面接練習をして頂きました。それが実り、正規採用されることとなりました。

試験勉強は決して楽しいものではありません。無駄に感じてしまうこともあるかと思いますが、私は毎日の勉強に対して強いストレスを感じていました。しかし、今実際に教壇に立てている毎日は非常に充実していて楽しいです。みなさんも辛いとか面倒くさいという気持ちで勉強を投げ出すのではなく、最後まで粘り強く頑張ってみて下さい。教員になりたいという強い気持ちを持つことが、過酷な試験勉強を乗り切る唯一の手段だと思っています。

教員採用試験体験記

平成22年度文学研究科英語英米文学専攻修了 吉野 慶太

1. はじめに

私は平成23年3月、専修大学大学院文学研究科英語英米文学専攻修士課程を修了し、同年5月より現在（平成25年1月）に至るまで神奈川県公立高等学校で臨時的任用職員として勤務しております。この度、平成24年度に実施された神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験（高等学校・英語）に合格することができました。この体験記が、これから教員採用試験を受験される方々の参考になれば幸いです。

2. 第1次試験

今回の1次試験では一般選考に応募し、専門教養、一般・教職教養試験に加え、論文試験を受験しました。（論文試験は2次試験ですが、1次試験の日に実施されます。）1次試験対策でのポイントは、時間の許す限り参考書や過去問に触れておくことだと思います。実際の教育現場で勤務していると、日々の仕事に追われ、自分の勉強時間の確保が難しく、十分に準備が出来ぬまま受験をしてしまうことが多いと耳にします。私自身も、週に20時間程の授業を担当し、生徒指導等で毎日のように校内外を走り回っていましたので、勉強時間の確保が最大の難関でした。勤務前後の移動時間や就寝前の空き時間を利用して、ひたすら参考書を読み、過去問や練習問題を解きました。とにかく数をこなすことで問題の形式にも慣れ、自信にもつながりました。どの分野から手を付けたら良いのか等、あれこれと考える前に、少しでも知識を増やすことや問題傾向に慣れることに集中すると良いと思います。試験本番では不安や緊張もありましたが、最後まで集中して試験を乗り切ることができました。これは、何度も予想問題や過去問を解いていたからだと思います。

3. 第2次試験

2次試験は2日間に分けて実施されました。1日目は模擬授業・集団協議、個人面接が行われ、2日目に実技試験が行われました。まず、2次試験に関しても、繰り返し練習することが大切です。私の場合は、2次試験のために同僚の先生方や専修大学の先生方に協力していただき、現職の教員の目線からの様々なアドバイスをいただきました。特に模擬授業では何度も練習を重ねることで、授業がより良いものになり、自信を持って試験に臨むことができました。

模擬授業に続いて行われる集団協議については、模擬授業と同様に、事前にテーマが発表されていたので、テーマについての知識を増やしておきました。周囲の受験者の方々の意見をよく聴き、自分の意見を簡潔に述べる

ことを心がけると良いと思います。

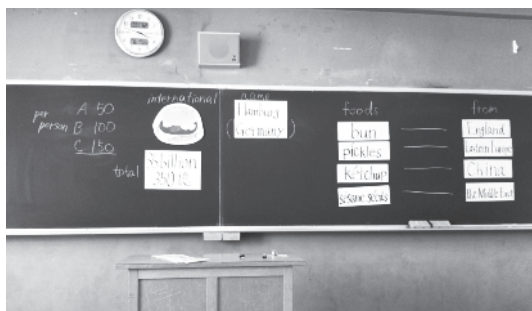
個人面接についても念入りに準備をしておくことが大切です。個人面接は試験での配点が最も高く、教員採用試験において最も重要であると言っても間違いありません。質問事例集等を利用して、普段から、自分はどんな教員になりたいのか、教育現場での様々な問題についてどう対処していくのか等の質問に対する自分なりの答えを考え、また、それを簡潔に述べる練習をしておくのが良いと思います。勿論、事例集等に出てある「教科書通り」の答えは参考になりますが、それを丸暗記するということではなく、自分の考えをはっきりと分かりやすく述べるのが大切です。試験本番では、多少答えに詰まってしまうこともありましたが、自分の考えを丁寧に述べることができたと思います。

最後に、実技試験についてですが、英語で自分の考えを述べる練習を繰り返し行いました。日本語でも自分の考えを簡潔に述べることは簡単ではないので、それを英語で行うとなれば尚更練習が必要でした。そのため、友人や同僚の英語科の先生方、ALT（Assistant Language Teacherの略。外国語指導助手。）の先生方にもご協力いただき、何度も練習を重ねました。試験本番では予想しない質問もありましたが、何とか対処することができました。

4. おわりに

これまで自分で綴ってきたことを振り返ると、教員採用試験の対策として私から言えることは「何度も繰り返し練習すること」に尽きると思います。あまり参考になるようなことは申し上げられませんが、この単純とも思える「何度も繰り返し練習すること」が成功への近道だと確信しています。これを読まれた方々と共に教壇に立つ日が来ることを願っています。是非、合格を勝ち取ってください。

最後になりましたが、教員採用試験を受験するにあたり、ご協力いただいた全ての皆様にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



模擬授業の板書練習

教員採用試験体験記

経済学部経済学科4年 小関 豊和

「教員採用試験を受けるのは難しい、現役ならなおさら無理だよ。」

私のゼミナールに所属していた先輩から頂いた言葉です。多くの方々がこのように考え、諦めているというのが正直な気持ちなのではないでしょうか。

そこで、アントニオ猪木氏の言葉を借りて僥倖ながら私の率直な気持ちを代弁させていただきます。

「出る前に負けること考えるバカいるかよ!!」

今回ここでは、一次試験と二次試験に向けての取り組みを中心に上げ私の体験を述べることにします。長文・駄文となってしまいますが、読んで頂いた方にとって何か少しでも役に立つことができたら幸いです。

一次試験への取り組み

一次試験に向けて勉強を本格的にスタートさせたのが大学3年生の9月頃でした。私が受験した県の専門科目（中高社会）では中学社会・高校日本史・世界史・地理・公民と全ての分野が満遍なく出題されるため、始めは中学・高校の教科書を読んで内容をまとめ理解することから取り掛かりました。その後、それぞれの分野の問題集を2冊ずつ購入し、それを全て暗記できるくらい徹底的にやり込みました。また、同時に、受験する県の過去問も解き、その県の傾向などを分析しながら進めました。



教科書の内容をわかりやすくまとめて

取り掛かることができました。

これらの中で私自身最も大切だと考えていたことに“計画を立てること”があげられます。その日の計画だけでなく、年間の計画を立てておくことで試験日までに気持ちの上で余裕をもって取り組むことができると思います。また賛否はあると存じますが、その日の予定した計画が全て終わることができたら、残りの時間は勉強をせず好きなことをするのもオススメです。きちんと計画を進め、それを通して「これだけやったぞ。」という自信をもつことで一次試験の道は開けてくるのではないかと感じています。

二次試験への取り組み

一次試験を終え、自己採点の結果を受けて、二次試験に向けての準備を始めました。二次試験においてメインとなってくるのが、模擬授業と面接です。

前者の対策として大学の諸先生方をお願いをして、自分自身の模擬授業を評価して頂き、その点に注意しながら何度も練習を重ねました。

後者の対策では大学の就職課に赴き、模擬面接を毎日のように続け、面接に慣れるように意識して取り組みました。また、中学校時代の恩師のもとを訪ね、今の教育現場の実態を少しでもつかもうと努めました。

二次試験に向けて、私が心掛けたことは「私は何もわかりません。だから勉強させて頂きます。」という謙虚な気持ちを持ち続けるということでした。これは、ゼミナールの教授に教えて頂いたもので「採用する側はそのような人材を就職活動では求めていることが多い。」ということから、教師になりたいという気持ちと共に自分の軸として据え、本番に臨みました。その結果として何とか二次試験も合格することができたのではないかと感じています。

最後に

今回の教員採用試験を通じて改めて多くの人に支えられているということを痛感させられました。

互いに励まし合い、切磋琢磨した友人。教員採用試験に向けてたくさんのサポートをしてくださった大学の諸先生方や就職課、教務課の職員の皆さん、東京アカデミーの先生方、多忙の中で話を聞く機会を設けて頂いた恩師の浩美先生。そして何より最後まで応援し、合格の報告を受けて一番喜んでくれた家族親戚一同など、まだまだたくさんの方々に日頃から支えられて私自身は生活ができています。そのため、教師になっても諸先輩方や同僚、後輩の先生方、時には生徒たちにも思いっきり支えてもらって教師の仕事に頑張りたいと考えています。そして、支えてもらった何倍ものパワーで私自身が誰かを支えられるよう精進していきたいと強く思います。



実際に使用したノート

教員採用試験体験記

平成23年度法学部政治学科卒業 大内 雄介

1. はじめに

私は、平成23年度に卒業し、2回目の挑戦で神奈川県教員採用試験（中学校社会）に合格しました。ここでは、私の2回の挑戦の過程や試験に対する心構え、勉強法を述べることで、少しでも皆さんの参考になったら幸いです。

2. 1回目の挑戦

私が、1回目の受験に向けて真剣に勉強を始めたのは、3年次の1月頃からでした。その後、1月から3月までは順調に勉強が進んでいました。しかし、4年次の6月に教育実習を控え、その準備に取り組むにつれて、採用試験の勉強が疎かになっていきました。それから、7月の採用試験本番を自信のないまま迎え、1次試験で不合格という結果でした。

1回目の採用試験を終えて、勉強への取り組みの甘さを痛感しました。そして、来年こそはという気持ちに切り替え、不合格後、すぐに来年への勉強を始めました。

3. 2回目の挑戦へ向けて

4年生は、卒業後どのような道に進むかということについて悩むと思います。私は、教員になるという道以外の選択肢はないと考えていました。そこで、3つの選択肢に絞りました。それは、①4月から講師をしながら勉強をする、②大学院へ進学し、勉強を続ける、③4月から7月まで講師をせず、今年に勝負をかける、の3つです。この3つの選択肢のなかから、私は、③の道を選びました。4月から新しい場所で生活を始め、新たなことに挑戦するよりも、残りは4ヵ月という短い時間しかないの、ここは集中して1本に絞って勉強して今年に勝負をかけようと決意しました。

2回目で意識したことは、1次試験対策です。まず、1次試験を通過して、初めて2次

試験にチャレンジすることができます。そこで、1次試験対策として、教員採用試験対策の各社（東京アカデミー、協同出版、時事通信社）の模試を、積極的に受験しました。模試を受験することも会場受験にこだわり、その場の雰囲気の中で力が発揮できるようになることで本番に生きてくると思ったからです。そして、その模試の問題を振り返り、新たな知識を得ていくというサイクルで勉強に取り組みました。それを行うことで、どういう問題が多く出題されているのかをつかみ、効率的な勉強ができたと思います。

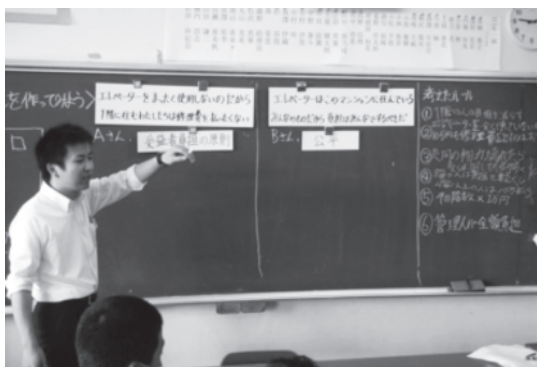
4. 2次試験対策

このような対策が実り、1次試験に合格することができました。しかし、1次試験の合格発表から2次試験までは、10日間という短い期間しかありませんでした。神奈川県2次試験は、模擬授業、集団討論、個人面接が行われます。

上記のように、1次試験対策に力を注いでいた私は、2次試験対策は疎かになっていたと思います。2次試験に生かすことができたのは、大学での教育実習の授業や教職の仲間との勉強会、介護等体験、ボランティアの経験、中学校での3週間の教育実習でした。大学での教育実習の授業では、模擬授業を行った人への感想やアドバイス、改善点を述べる場が与えられています。それは、2次試験の集団討論で自信を持って臨むことにつながりました。また、神奈川県模試の模擬授業は、事前にテーマが示され、それに沿った指導案、教材を準備することが許されています。これには、現場の教育実習の研究授業に向けて指導教諭の先生と練った授業と指導案に、卒業後にもかかわらず先生方にもアドバイスをいただき手直しを加えて、自信を持って試験に臨むことができたと思います。このように、大学生活の4年間で経験した体験の多くが2次試験に生かすことができたと感じています。

5. おわりに

最後に、これから受験する皆さんへ伝えたいことは、大学で学んでいる日々を大切にしたいということです。先生方や仲間との出会いや授業、ゼミ活動、サークル活動、ボランティア活動など大学生活で熱心に取り組んだことは、必ずや教員採用試験やその後の人生においても大きな財産になると思います。



教員採用試験体験記

平成22年度文学部人文学科環境地理学専攻卒業 畑野 なつみ

「私の番号が載ってる！」合格者一覧を見た瞬間、長年の夢がようやく叶った喜びでいっぱいでした。

私は、平成23年3月に専修大学を卒業し、現在公立の中学校で講師として勤務しています。この度、平成25年度の横浜市教員採用試験に3回目の挑戦で合格することができました。この採用試験体験記では、私の採用試験合格までの道のりを述べさせていただきます。教員を目指す学生の皆さんに少しでも役に立てれば幸いです。

私は、小学校の教員になることを志望していました。しかし、進学した専修大学では小学校の免許を取ることが難しい為、卒業後に小学校の免許を取得することを決め、大学では中学校と高校の社会科の免許を取得しました。在学中も小学校の教員への志は捨てずに、小学校のボランティア、教育に関する授業に積極的に取り組みました。振り返るとこのことが、私の合格につながる第一歩でした。

平成23年度の採用試験は社会科で受けましたが1次試験で不合格になり、試験への取り組みを見直すことにしました。横浜市の教員採用試験の1次には、「専門教養」と「教職教養」、1次が合格した後に採点される「論文」があります。専門教養や教職教養は、在学中に参加した教員採用試験対策講座で学んだことを生かして、繰り返し問題を解く形で勉強に取り組みました。論文は、在学時代から入っている研究室「たまごの会」で、小論文の書き方を1から学びました。教授や現場で働いている先輩方に書いた論文を見ていただきアドバイスを貰ったおかげで力が付き、大体8割位の点数が取れるようになりました。



部活動のミーティング（強豪校に勝利した後で）

卒業後は小学校免許取得に向け、明星大学の通信教育部に入学しました。明星大学では、試験やスクーリング、レポートといったもので単位を取ることになっています。私は最短の1年で2種免許取得を目指していた

ので、毎日レポートに取り組み、休日はスクーリングに通いました。そこで出会った同じ志を持った仲間と、励ましあえたことは小学校教員を目指す私にとって良い刺激になりました。



生徒からいただいたもの

平成24年度の採用試験は免許取得見込みで小学校を受験し、1次試験は合格したものの、2次試験は不合格でした。横浜市の教員採用試験の2次には、1次で書いた「論文」、「個人面接」、「模擬授業・集団面接」があります。この際に他の受験者を見て、私と現場に身を置いている人との経験の差を強く感じました。そこで、どんな形でも良いから学校の現場で学ぼうと考え、横浜市の講師登録をすることにしました。すると、1カ月後に横浜市立宮田中学校で社会科の講師として働けるチャンスが舞い込んできました。

講師として働けることとなり、今年度も同じ学校で勤務して1年以上が過ぎました。中学校では、教科指導はもちろん、生徒指導、部活動指導なども行っています。日々、生徒に囲まれとても楽しく過ごしながら様々なことを学び、生徒からパワーを貰います。また、指導する中で、中学生は小学校で学んだことが生活面でも学習面でも大きく影響していることがわかり、小学校教員として私が果たしたい役割が見えてきました。そして、中学校での経験を持って、平成25年度の採用試験に臨み、2次試験の面接の受け答え、模擬授業なども自信を持って受験することができ、その結果、合格することができました。

上述の通り、私の採用試験合格への道のりは遠回りもしましたが、それら全てが私の力になりました。また、その際に出会った人々から多くのことを学びました。「免許がない」、「不合格」、それはそこで終わりではなく、多くのことを学べる第一歩なのだと思います。教員になりたいという気持ちを持ち続けて頑張ってください。

教員採用試験体験記

平成23年度文学部心理学科卒業 中山 彩子

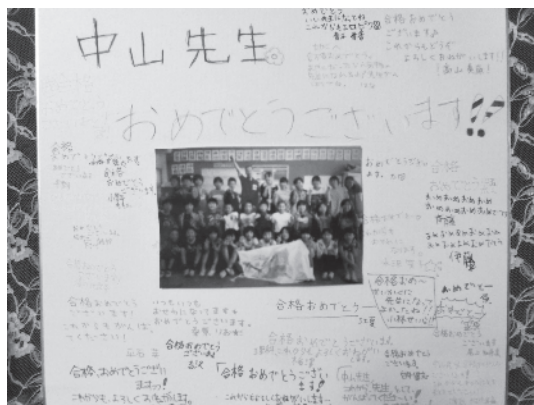
私は本学在学中に、玉川大学との連携プログラムによって小学校の教員免許状を取得しました。採用試験の勉強というよりは単位を取ることに必死でした。「落ちたらまた来年受ければ良い。」と思いながら4年次に受けた採用試験でしたが、幸運にも一次試験は通ったものの二次試験で落ちてしまいました。そのような中でこれまでの私の姿勢を大きく変えたのは、秋に行った教育実習でした。そして大学を卒業してからは、実習校に講師として採用していただき、理科のチームティーチング(T.T)担当として勤務しながら採用試験の勉強に励みました。私が合格できたのは同じように教員を目指す仲間の存在は勿論、勤務校の先生方の支援や日々接する児童たちの笑顔があったからです。

現在勤務している小学校では、主に担任の先生がT1として授業を進め、私はT2として補助的な役割で授業を見ています。各学年の先生方は、経験が積めるようにT1として指導する時間を設けてくださり、授業や児童への接し方のアドバイスもしていただきました。副校長先生は一次試験まで毎週小論文の対策をしてくださいました。夏季休業中には校長先生と副校長先生が、時間を設けて面接練習や指導案を見てくださいました。面接練習で一番強く言われたことは「具体的に話す」ことでした。経験が少ない私たちは何でも抽象的な発言になってしまいがちです。そこで、質問された内容に近い児童や状況を思い浮かべて答えるようにしました。常に頭の中でイメージを構築しながら話すことが具体性を生むと考えます。実際に教壇に立たれている先生方に見ていただけるのは、とても力になると感じます。

同じ目標に向けて、仲間たちと個人面接や集団討論の練習を何度も行いました。周囲の合格への意識が高く、常に刺激を受けること

ができました。自分が集団討論に参加しているときは、話題についていくことや自分の意見を言うことに必死になってしまいます。でもそこで、討論に参加していない友人たちが討論全体や個人個人に対して気付いたことを発表するのを聞くと、客観的に自分を捉えることや次回の課題が見つかりました。面接や討論の練習に慣れてしまうことは逆効果になることも考えられますが、毎回具体的な目標を立てて臨むことが大切だと思います。

このように私は周りの方々に支えられてきました。力になってくれる人は必ずいます。勤務校の環境が私には強い力になりました。現場で先生方や子どもたちと関わることができたからです。私は第3学年以上の授業を見ているので、授業のない時は低学年の学級を見学させてもらったり休み時間は子どもたちと一緒に遊んだりしました。大学在学時には、夏の水泳の支援員も経験しました。支援員や学習ボランティアなど、子どもと関わるチャンスはたくさんあると思います。どのような形で子どもと関わりをもっていれば、子どもの発達段階や一人一人の個性がわかってきます。これは自分の力になるはずです。そしてそれは、採用試験においても力として発揮できるものだと感じます。支えになってくださった方々に感謝し、これからの教員生活を通して恩返しをしていきたいです。



教育実習を終えて（国語）

那須町立那須中学校 文学部日本語日本文学科日本文学文化専攻4年 平山 璃紗

私は5月14日から6月1日までの3週間、母校である栃木県那須町立那須中学校で教育実習をさせて頂き、教科指導は2年生、ホームルームは3年生のクラスでした。1日1日がとても充実していて、多くのことを学んだ3週間でした。実習で学んだこと、実習で心掛けたことを、私なりにまとめてみたいと思います。

まず、私が学んだことは、生徒との信頼関係を築くことの大切さです。実習最初の1週間は生徒たちとどのようにコミュニケーションをとったらよいか、生徒たちは私を受け入れてくれるのかなど、緊張と不安でいっぱいになってしまい、積極的になれずにいました。学級担当の先生に「まずはとにかく生徒たちの輪の中に入ってみて！」とアドバイスして頂き、私は勇気をもって自分から話し掛けるようにしました。すると次第に生徒たちは心を開いてくれて、学校生活のこと、家族のこと、趣味など色々な話をしてくれるようになりました。時には悩みの相談を受けることもありました。限られた時間の中でもより多くの生徒たちと関わるようにするためには、休み時間や昼休み、部活動の時間もとて大切だと思います。私は授業の始まる前、早めに教室に行ったり、生徒たちの体育祭の朝の練習（実習期間中に体育祭があったので）に参加したりして、生徒たちのそばに常にいられるよう工夫しました。小さなことから信頼関係を築くことができるということを実感しました。

また、私は教壇実習で説明文の分野の授業を行いました。大学の仲間たちからの模擬授業コメントシートを参考に、自分なりに事前準備をして、本番の授業に臨みました。私が心掛けたことは、生徒の動きや思考が止まってしまうないように、前もって様々な手立てを考えておいたことです。具体的に言うと、発問の仕方や作業指示の仕方などです。授業の導入での発問は生徒たちの手の挙げやすいものし、教材に興味を持ってもらえるよう工夫しました。作業指示の仕方に関しては、

「①自分で②グループで③もう一度自分で」という展開を意識して生徒たちに指示をしました。私はグループ活動を多く取り入れたのですが、生徒同士活発に意見交換ができていました。もともと話し合いをするのが好きなクラスだったので、グループ活動がより一層授業の中で活きたと思います。そういったクラスのカラーに合わせて教材研究を進めることも大切だと感じました。しかし、反省点もあります。「これも教えなきゃ。あれも教えなきゃ。」というように、せかせかした授業になってしまいがちだった点です。生徒たちにとってこの授業では何を理解する必要があるのか、何を教師は理解させたいのか、その軸をしっかり決めて授業することが肝要だと感じました。

もうひとつ、私が心掛けたことがあります。それは提出物や宿題に関してです。生徒たちがやってきた宿題のプリントに大きく花丸をつけ、アドバイスやコメントも書きました。生徒たちが「嬉しい！」と言ってくれたときには、努力してよかったなと思いました。

最後になりましたが、私が無事教育実習を終えることができたのは、大学の教職課程の先生方、ご指導くださった那須中学校の先生方、生徒・保護者のみなさんのおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。3週間では教師という職業のほんの一部を覗いたにすぎないと思いますが、改めて「教師になりたい！！」と思うことのできた教育実習でした。これから実習に行くみなさんが有意義な教育実習を過ごせるよう心から応援しています。頑張ってください！



教育実習を終えて（英語）

私立湘南学園高等学校 文学部英語英米文学科4年 峰尾 宣嗣

1 教育実習の心構え

時の流れを速く感じ、密度の濃い3週間で。だからこそ本気で取り組んだことで自分の成長を肌で感じ、この経験が後の様々な状況で活かせると思います。それは、教職を目指さずに一般企業に就職を希望する方も同じだと思います。

つまり教育実習は、全ての学生にとって「社会に出るための準備」と位置づけることができるでしょう。この実習期間では様々な人と関わる機会があります。例えば、担当してくださる指導教諭は「上司」でもあるわけです。実習中には分からないことが沢山あるため、必ず指導教諭の先生にいろいろ質問することがあると思います。生徒対応に関しても、相談をしてから取り組んでうまく物事が進んだことも多くありました。逆に、自分で勝手に行動してしまうことによって生徒が被害を受けてしまうケースもあります。そのため、教育実習では指導教諭の先生としっかりとコミュニケーション（特に報告・連絡・相談）をとってから、実習で起こる様々な状況に対処していけると良いと思います。

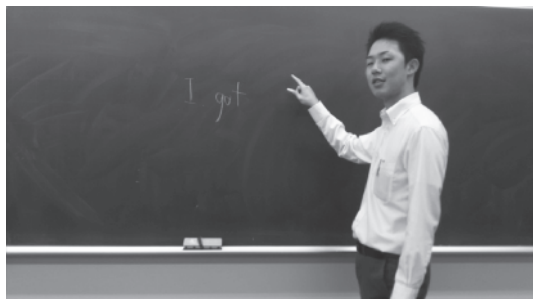
2 教壇実習・教科指導に関して

私は2週間で25コマの授業を担当しました。高校2年生の英文法の授業で、あらかじめ高校側が教材研究用の文法書を指定してくださって購入しました。実習の初顔合わせから、実習開始まで1ヶ月以上あり、3回ほど指導教諭と打ち合わせがあったため準備が万全に行き、実習中に新しくプリントの作成や、指導案を作成する手間がありませんでした。そのことが実習中に部活動にも参加できる余裕も生みました。

一方、実習前にあまり打ち合わせが出来ずに、または教材研究をあまり事前にしなかった周りの実習生の中には、睡眠時間が毎日3時間未満の人もいて体が悲鳴をあげていた様子も見られました。たとえそのような状況でも、事前に使う教材を把握して、単語の発音や英文の意味を確認しておくだけでも負担が変わってくると思います。イメージトレーニングができるとさらにいいですね。

さらに、私は実際に教員になることを強く志望していたため、実際の教員の生活に合わ

せて過ごすことも目標に入れていました。教員になってから毎日2～3時間の睡眠しか取れなかったら確実に体を壊します。余裕を持って実習に臨み、全力で生徒たちとぶつかっていけると充実するはずです。



模擬授業の練習風景。
(友人数名と実習前は自主的に行っていました)

3 生徒と触れ合う様々な機会

実習中は、生徒と様々な空間・時間で過ごします。例えば、生徒が授業中にとても暗い表情をしていたとします。その表情には必ず背景があり、例えば英語が苦手であったり、家庭で保護者の方と喧嘩をしてしまったりと様々です。しかし、そのような生徒の中には放課後の部活動では輝いていて、試合でも大活躍することもあります。放課後の掃除も一生懸命やるときもあれば、逆に面倒くさそうに掃き仕事をすることもあります。しかし、最後のゴミ出しの時は率先して自分から名乗り出ることもあるのです。

つまり、たった一人の生徒からも複数の「顔」が見えてきます。実習中にその一人の生徒から、いかに「多くの顔」を見てあげられるかによって、信頼関係が変わってくると思います。だからこそ、「(たくさんいる中の)生徒の一人」ではなく、「一人の生徒」として接すると良いでしょう。

実習の最初の1週間は、普段と異なる状況に生徒側も警戒していることがあります。その警戒心を解くために色々な行動をすると良いと思います。部活に出たり、一緒に放課後に掃除をしたり、休み時間は教員室に帰らずに生徒とコミュニケーションをとったり等、手段はたくさんあります。その努力が実を結び生徒自身から話しかけて来てくれて、最後の日には寂しい別れとともに充実感に満ち溢れると思います。とても魅力のある3週間になるはずです。

教育実習を終えて（社会）

横浜市立大綱中学校 科目等履修生（平成23年度経済学部経済学科卒業） 中俣 美幸

私は6月中旬から3週間、母校の横浜市立大綱中学校で教育実習をさせていただきました。担当学級は2年2組です。退勤は20時前後で、事前指導の段階で指導案と教材集めもある程度していたため、睡眠時間を極端に削ることはありませんでした。1週目はテストで、教壇実習は2週目以降に、2年生の中の4クラスで行いました。

教育実習を通じて、座学では決して理解できない「心のある、人間を相手にする難しさ」を知ることが出来ました。

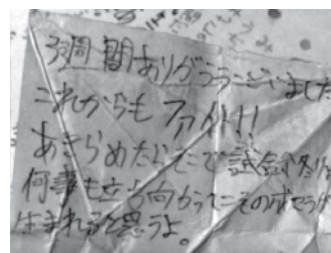
今回扱った単元は、地理的分野の「九州地方」です。社会科では、本、新聞、写真、または食べ物など、様々なものが教材になり得ると思います。その分、教科書内容を補うための資料選びは大変ですが、いろいろな授業計画が立てられて楽しかったです。指導教諭の先生が、全面的に自由にやらせてくださったので、どんどん挑戦できました。

クラスによって空気は全く異なり、反応次第では、授業展開を変えながら進めます。板書だけは、生徒の回答や生徒の手で埋めていくように用意していたので、ほぼ計画通りに使っていました。授業時間は、反応によって10分ほど余らせたり、やむを得ず授業内容を削ったりしました。時計を見ながら柔軟に内容を変えることには、苦戦しました。

授業は、写真や本を使いながら、事実のみを伝えました。「何が問題なのか、どう思うのか、どうしたらよいのか」ということは、全て生徒に考えて文章にしてもらいました。その際に驚いたことは、子どもたちが私の予想以上に思考を広げて、大人顔負けの考えを述べるということです。例えば「在日米軍基地は沖縄のこれだけの規模を占めるが、どう思うか」という問いについて、「危険だから減らしたい」に加えて「しかし雇用の多さにも関わるので実際には簡単にはいかない」とい



う答えが出るなど、かなり多角的に考えることが出来ます。生徒は、本当に一生懸命授業を聞いてくれます。間違ったことを言ったり、答えに詰まったことは必ず訂正したり、次回答えたりしなければならないと改めて思っています。また、私は教壇実習4日目から風邪で喉を完全に潰してしまい、時には黒板を使って筆談までしました。それでも生徒は、真剣に私の顔を見て話を聞いてくれました。つたない授業では元気さだけが唯一のとりえでしたので、体調管理の甘さは本当に悔しかったです。



普段の生活では、名前を覚えて臨んだため、初めから生徒との距離を縮められました。とにかく関わって、観察して、子ども同士の関係や普段見せない顔を把握するように意識しました。元気で明るい子が、不登校歴や複雑な家庭事情を持っていたりします。また、軽い障害を抱える子や、それが疑われる子もいます。実習中の動きは自由でしたので、1週目は養護の先生に、担当学級の生徒についての話を聞きました。これは、限られた時間で生徒と関わる上で本当に役立ちました。中2ともなると、大人のような会話が出来る子がいますが、それでも心はまだ子どもです。何を考えているか掴むのは難しいですが、いざというときにすぐに手を差し伸べてあげられるように、普段からよく見ていてあげたいなと思いました。

最終日は、寂しさや感謝の思いから号泣しました。ここには書ききれませんが、実習中には、人間相手ゆえの問題に直面したり、先生方の激務ぶりを目の当たりにしたりして、教職を目指すことへの不安を抱えました。しかし最後にその話をしたら、子どもたちが「迷うな！進めばか野郎」などと激励をくれ、やはりこの道で頑張ろうと決心しました。本当に短く、充実した3週間です。みなさんもぜひ、教職を目指して頑張ろう！と思える実習になるよう、頑張ってください。

教育実習を終えて（商業）

長野県赤穂高等学校 商学部マーケティング学科4年 飯山 静香

はじめに

私は5月下旬から6月上旬にかけての2週間、母校である長野県赤穂高等学校で教育実習を行いました。HR、教科担当共に1年A組を受け持ち、科目は「簿記」を教えました。同時期の実習生は7名でしたが、商業での実習は私1人だけという環境だったので、商業科の先生方には丁寧なご指導をしていただくことができました。

事前準備

3年次の春に実習のお願いをして以降、数回にわたり担当単元の確認やHRの打ち合わせに伺いました。そのため、教材研究の時間を多く取ることができ、生徒の名前も実習前には覚えることができました。実習生全体での打ち合わせは実習直前にあり、注意事項や日程の確認が行われました。

1日の流れ

朝は8時半までに出勤すると言われていましたが、8時前には学校に到着し教室の整備や授業準備を行いました。朝のSHRでは、担任に代わってその日の連絡や出欠の確認をしました。この時間に生徒の様子を観察し、コミュニケーションを図るよう心掛けました。教壇実習は4日目から行い、空いた時間に他の先生の授業を見学しました。放課後は清掃指導や、部活動の指導にあたりました。

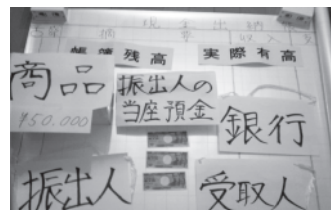
教科指導

毎時間プリントを作成し、それに沿って授業を進めました。始めのうちは、こちらが説明ばかりしている一方的な授業になってしまい、指導教諭の先生から、生徒ともっとやりとりをしながら進めるようアドバイスをいただきました。教壇に立つことに慣れてきてか



らは、自分なりの工夫を凝らすようにしました。私が担当した単元は「現金・預金などの取引」だったのですが、取引という言葉に親しみのない生徒にわかりやすく説明するために、小道具を使ったり、取引を生徒同士で実演させたりしました。その結果、難解な説明になってしまった部分もあったのですが、「生徒が参加する授業」という点には近づくことができました。

研究授業の際は、板書や発問、生徒との関わり方について、基本をしっかりとやることや、生徒全員を見ているようにすることのアドバイスを受けました。



教壇実習で学んだこと

大学でも模擬授業をやってきましたが、教育実習でより学ぶことができたのが生徒の反応です。思わぬところで躓いたり、つまらないときは素直な反応を取ったりするところは、実際に教壇に立って初めて気付かされました。特に発問を投げかけた時には予想をしていない回答が返ってくることがあり、その時にどのような対応をするかということが課題となりました。また、体育や昼食の後の授業はだらけること、朝の授業は反応が薄く教室が静かであることなど高校生ならではの特征があり、生徒の様子によって授業のやり方を変えたほうが良いということを学びました。

これから実習を迎える方へ

実習中は毎日忙しくあまり時間が取れないこともあるので、できる準備は事前にやっておくことが大事だと思います。教材研究には時間を掛け、教科書以上の知識を頭に入れておく必要があります。授業準備は本当に大変ですが、「今日の授業、わかりやすかったです。」と生徒に言ってもらえるのはとても嬉しいものです。

自分が力を入れた分だけ生徒との距離は近くなります。実習期間はあっという間に過ぎてしまうので一日一日を大切に、初めて先生と呼ばれる喜びと責任を噛み締めて過ごしてください。

教育実習を終えて（情報）

東京都立松原高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 那須 弘基

私は母校である東京都立松原高等学校で実習を行いました。実習期間は5月28日～6月15日。実習科目は情報で、ホームルームのクラスは2年生を担当しました。

実習生の仲間は私を含めて3人。体育、数学、情報とそれぞれ違う科目で実習を行いましたがそれぞれ教育に対する思いは強く、生徒との関わり方や教え方で悩んだ時には情報や考えを共有し、実習生としてより良くなれるよう努めました。

教育実習で特に苦労した点は、実際の生徒の動きについてです。指導案を書くときは生徒観や生徒の学習活動として考えなければいけない点ですが、これは実際に生徒たちと関わってみるまでわからないことの方が多く、実習に行って初めてわかることの方が多かったです。大学にいる間、模擬授業をやっていく中で、生徒観や生徒の活動を考えながら授業を進めた時は、割とうまくいくことが多いのですが、いざ現場に行って授業をしてみると、予想外の行動をされることが多いです。特にコンピュータのスキルや理解度に思った以上の幅があり、初回授業の進度は予想以上に遅れてしまいました。

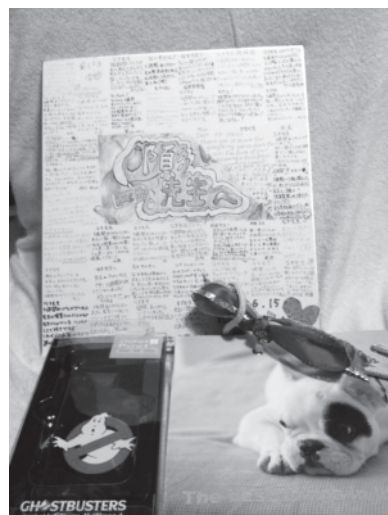
そこで教科担当の先生とも相談させていだいて、もう一度授業を見直してみました。スライド中心だった授業に発問をさらに増やしたり、スライドだけでなく実際にモノを取り出して生徒の視線をこちらに注目させたりと、動きの多い授業をすることで生徒の興味をひき、集中力を保とうとしました。スキルや理解度の違いに関しては、授業を細かく区切って、その区切りごとに一息おいて、全体に理解しているかどうか、わからないことがあればどこかを確認することで、全員の足並みをそろえようと思いました。

これから実習に行く方々にアドバイスしたいのは、やはり行ってみないとわからないということです。行ってみないとわからないので、そのための準備がなによりも大事であるということです。授業の準備は入念にし、生徒の活動を良く考え、その活動に対する教師

の反応もできるだけ多く想定しておく、少しでも失敗は減らすことができます。やはり経験の少なさゆえにどうしてもわからないことはできますが、その穴を埋めるのは入念な準備と練習です。

教育実習は授業中に生徒と関わるだけでなく、授業外でも生徒と関わらなければなりません。生徒たちとの関わり方は注意しなければならない点だと感じています。授業をしっかりと受けてもらったり、自分の注意をしっかりと聞いてもらったりするには、信頼関係の構築が必要だと思います。信頼関係の築きかたは人それぞれだと思いますが、気を付けた方がいいと感じたことは、甘やかすことで生徒に振り回されるようなことがあってはいけないということです。実習生と言っても生徒から見れば先生なのだから、しっかりとした態度で生徒と向き合わなければなりません。

3週間という非常に短い期間でしたが、とても楽しく充実した3週間でした。これから実習に行く方々は不安なことばかりだと思いますが、私も行く前日まで不安を抱えていました。実習をやっていくなかで不安はだんだんとなくなっていき、3週間を終えるころには自信や楽しさが残るはずで、教育実習に行くというのは本当に貴重な機会なので、是非楽しんでください。楽しむためには精いっぱい努力が必要ですが、その頑張りに見合った達成感や経験を得られるので、これから実習に行く方々は頑張ってください。



教育実習を終えて（数学）

千葉県立館山総合高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 八木 悠貴

私は6月上旬から6月下旬にかけて母校である、千葉県立館山総合高等学校で教育実習を行いました。実習科目は数学で、ホームルームは3年生のクラスを担当しました。

教壇指導は当初、2週目からという流れでしたが、指導教諭の出張が立て続けに入っていた関係もあり、2日目からとなりました。いきなりのことで、準備が大変でした。それに加えて、最初の授業がHR担当クラスではなかったので、この授業が初対面となり、生徒の方もいきなり私が授業をし始めるので驚いていました。私も気まづさが募って、この上なく緊張しながら授業をしたことも、今となっては良い思い出です。

教壇指導において、最も学ぶことができた点は、「教材研究の大切さ」と「生徒観」です。教育実習前の模擬授業では大学生が生徒役になりますが、実際の生徒を相手に授業を行うと、模擬授業の時には見えてこなかった、生徒のつまずきや、私自身の振る舞いなどによって、予想外に戸惑ってしまうことが本当に多くありました。模擬授業でも声量や教材研究について指摘されましたが、自分では大きく声を出しているつもりなのに、声が通っていなかったり、生徒の方を見ようと意識していても、不安と焦りからか見ていなかったり、教材研究を自分なりにしっかりとしたつもりでも、生徒の理解を深められていなかったりと、結果的に準備不足になってしまったことがありました。また、思っていた以上に数学を苦手としている生徒が多いということと、得意な生徒、苦手な生徒の理解度の差が激しかったです。指導教諭には自分なりに様々な観点から熟慮した上で、相談をするように心がけました。指導教諭からのアドバイスやご指摘を受けながら、次回授業をより良いものにするために努力し、授業を重ねるうちに、少しずつ改善できるようになりました。そのようなことから、現場の授業で学んでいくことの重要性を身に染みて経験しました。

教育実習を終えてみて、実習前と実習後で



は、教員に対しての見方や考え方が非常に変わりました。まず、先生方は生徒たちのために、朝早くから夜遅くまで働いているということです。授業の資料作りや、担当している係の業務や、部活動、その他説明しきれないほどの仕事量を、こなしていました。これらは自分が生徒だった頃には見えていなかった部分でした。また、教員は本当に急な対応を迫られることが日常茶飯事で、常に慌てず冷静でいなければならないなと感じました。

授業においては、ただ説明するのではなく、1つ1つの意味を深く説明できるようにしなければと痛感しました。また、1コマの授業において「何を理解してほしいか、何を伝えたいか」という軸を必ず決めてから、授業を考えていく大切さを知りました。それがあるかないとでは、授業内容に天と地ほどの差が出ることを痛感したからです。

3週間という本当に短い期間でしたが「教員」になるためには、ただ頭が良くて、教科を教えるだけで成り立つものではなく、人として生徒から慕われる存在にならなくてはならないと強く思いました。「こんな先生みたいな人になりたい」「この人についていけば間違いのない、信頼できる」と思ってくれるような人間性を持ち合わせていないと教員にはなれないと改めて感じました。後輩の皆さんには、人として自分を磨いていく、豊かにしていくには、どうしたら良いのかということ念頭に置いて、過ごして欲しいと思います。皆さんが是非楽しい教育実習が送れるように願っています。

教育実習を終えて（小学校）

横浜市立恩田小学校 商学部マーケティング学科4年 池田 元

私は10月22日から4週間、横浜市立恩田小学校に教育実習生として出勤しました。恩田小学校は母校で自宅から徒歩2分という近さだったので、出勤の苦労はありませんでした。

また教育実習先が恩田小学校と決まり、初めて訪問させていただいたときに学生ボランティアを依頼され、3年生の3月から学生ボランティアとして出勤して、すでに先生方とも仲良くさせていただいていたので、気持ちの上でも楽に教育実習を始めることができました。担当したのは第5学年で、とても素直でメリハリのある児童でした。担当教諭の先生には、教壇実習の小さな相談事から日ごろの学校の様子まで、細かなところまで私に教え込んでいただきました。担当教諭との出会いは、私の教育実習の中で一番の意義だったと思います。

児童との触れ合いで学んだことは、本当に多くありました。児童の気持ちの変化は十人十色で、その都度対応を変えなくてははいけませんでした。特に教壇実習中は、担当教諭の先生が授業が終わるまで手を出すことをほとんどしなかったのが、冷静を装いトラブルにも必死に対応しました。すべてを担当教諭に教えてもらうだけでなく、現場にいることを活かし、その場から自分で学ぶことも必要でした。

教育実習の期間が4週間もあったので、学校行事も多く体験することができました。まず1週目には運動会があり、運動会の準備運営や児童の努力を間近で見ることができました。2週目からは第5学年の区の球技交流会の練習が始まり、女子のサッカーの練習をまかされました。3週目ではオープンスクールという1週間の授業参観があり、授業参観での学校の動きや、先生方の授業の組み立てを明確に観察することができました。最終週は私の研究授業や全日経営のほか、先生方の重点研究会の研究授業があり、先生方の授業向上の研究過程を見ることができました。このように、4週間という短い期間でも学校は多くの行事があり、今までに考えることもなかった教員の仕事を知ることができました。

教育実習という場に行くと、教科の指導や児童指導などを先生方に教えてもらうという意識が強くなりがちだと思いますが、児童にとっては先生であり、さらに行事や授業準備などは学校職員の一員として、積極的に手伝うということが大切になります。大学などで学んでいることは、教員として必要なことばかりですが、教員という職業の勉強ではないため、実務などを多く知り、それとともに児童と向き合っていくということを考えて実習しなければならないと思いました。実際、実習中に学校内でのトラブルは毎日発生し、その対応を先生方は一つずつ解決していきながら、学校に関する様々な事務処理をしています。それに加えて教育実習生の対応をこなしていく担当教諭の忙しさは並大抵のことではないと感じ、誰でもできるようなことは手伝うようにしました。手伝っていくと、教員のやるべき仕事の一部が見え、教員を職業という観点で再確認できると思います。

これから小学校の教育実習に行く後輩のために伝えるとしたら、私は、叱るということに注意して見てほしいと思います。教育実習最終日に、児童から手紙をいただきました。その中でも印象的だったのは、もっと怒った方がいいと書かれている物が多くありました。自分なりに指導も実践してきたと思っていましたが、児童はもっと印象的な指導を受けて成長したかったのだと思います。児童の成長の意欲も感じ、自分の指導の際の威厳について、改めて考えることができました。教育実習という場では、萎縮してしまうこともあると思いますが、学校の現場を知る最良の機会なので、失敗を恐れず、自分の目指す指導を実践してみてください。応援してます。



介護等の体験を終えて

法学部法律学科3年 興津 彩香

私は、5月に特別支援学校で2日間、8月には社会福祉施設で5日間の介護等体験をした。どちらの体験も、いい意味でも悪い意味でも、私の介護等に対する考えを覆すようなものであった。

まず、5月に体験した特別支援学校では、いい意味で私の考えは覆された。特別支援学校に行く前の私は、正直、「知的障害者」といわれる人たちがどういった人たちなのか知らなかった。ただ、健常者と同じようなことはできない、ひとりでは生活することが困難であるなどという勝手な考えから、「可哀想だ」という思いが先行していた。

たしかに、最初に生徒たちと接しようとした時は戸惑った。まだ彼らがどんな生徒かわからなかったり、コミュニケーションをどう取るべきかということにこだわっていたりしたからだ。体験が始まる前は、とても不安だったのだ。

しかし、彼らの輪の中に入り込んでみると、意外にもすんなりと溶け込めた気がした。そこにはいろいろな生徒たちがいた。おしゃべりが好きな子もいれば口下手な子、音楽が好きな子、人懐っこい子など、ほんとにいろいろな生徒がいた。もちろん個々に障害は抱えているが、それを感じさせない元気とパワーを感じた。私が介護等体験をするにあたっての彼らへの先入観が、取り払われた瞬間だったともいえる。

この体験は、彼らの持つ「障害」が、彼ら一人一人の「個性」というように、考え方を変わてくれるものであったといえる。

一方で、8月に体験した社会福祉施設は、私自身が体験前に抱いていた想像とは大きく異なっていた。私の体験先は、病院、デイセンターがほぼ一体となっている、設備の行き届いた老人ホームだった。デイセンターというのは、在宅の利用者さんが昼間に集まって運動をしたり、おしゃべりをしたりする場である。ここでも1日だけ体験に行った。こ

に来て利用者は、自分の祖父母と同様の印象を受けた。体験前に抱いていた体験が、このデイセンターでの体験であった。

5日間のうちの4日間は、老人ホームの、ユニットと呼ばれる部屋に配属された。そこは、10人の利用者さんが共同生活をしている部屋であった。

デイセンターとの大きな違いは、利用者さんの認知症が大幅に進んでいることであった。最初はこの現状に驚いてしまい、どうしていいかわからなかった。コミュニケーションを取ることがこの体験の主な私の役割であったが、これがとても大変だった。会話がなかなか成立しなかったり、利用者さんの声を聞き取れず、要望に応えることができなかったりすることもあった。私が一番困惑したのは、夢の世界に入り込んでしまう利用者さんに、どう対応したらいいのかということだった。たとえば、老人ホームにいるにも関わらず、自分は駅のホームにいるという錯覚をしているということである。

このように、初めての出来事が多すぎて、最初は戸惑ってばかりだった。しかし、慣れてくると、利用者さん一人一人にちゃんと対応できるようになった。利用者さんの声を聞き取ることもできるようになったり、夢の世界から現実の世界に引き戻してあげるのが大切だということを学んだりもした。

これらの体験を通して私は、現状を少しでも知るということが大事だと感じた。高齢化社会の日本の問題など、知っているようで知らないことはたくさんある。私は、今回の体験をとて有意義なものだったと感じている。知らなかった世界を知ること、これからの社会に何が必要なのかということが、少し見えてきた気がするからだ。これらの体験をここで終わらせず、今後活かしていければいいと思う。今回、このような体験ができて、本当に良かったと感じた。

あなたはどんな教師になりたいのか？

経済学部兼任講師 種藤 博

1. あなたは何のために教師を目指すのか？

私が「社会科教育研究1」の講義を始めるに当たって、学生に聞くことは「あなたはどんな社会科教師になりたいのか」という問いである。この文章を読んでいる皆さんは、おそらく「こんな教師になりたい」という想いが強いのではないだろうか。私が良く耳にするのは、「野球部の顧問になって、強いチームを作りたい」という人。それから、自分が中学校や高等学校のときにお世話になった先生のようにになりたいという人。また、自分が学生時代にあまり良い思い出をしておかなかったで、学校の先生になって同じ思い出をさせたくないという人。動機はさまざまであるが、果たして皆さんが取ろうとしている免許状は何であろうか。小学校教員志望の人とはともかく、中学校や高等学校教員を志望している人は自分の専門教科があると思う。私の先輩が、「俺たちって部活動をやるために教師になった訳じゃないよね。社会科の教師なんだよね。」という言葉をよく聞く。つまり、現場の教員に求められているのは、部活動や生活指導はもちろんだが、第一は授業である。そして、授業をやるには、必ず専門性が必要なのである。だから、学生のみなさんには自分が取ろうとしている免許状の教科について、どんな教科なのか、どんな指導法があるのかを良く理解し、教師になるべきだと私は思う。

2. 社会科は覚える教科なのか？

本稿では、私の専門が社会科なので、社会科の教科の性質について述べたい。よく社会科は暗記教科という人が多い。受験科目で社会系の科目を選択した人は、いかに多くの語句や人物の名前を覚えるべきかを、受験勉強で散々思い知らされているだろう。

私の本務は中学校教員であるが、1年生の最初の授業で「社会科は好きですか。嫌いですか。」という質問を投げかけると、多いクラスでは3分の2が嫌いと答える。その理由を生徒たちに聞くと、「都道府県が覚えられない」「歴史上の人物やできごとが覚えられない」という理由が多くみられる。小学生でも高学年になると社会科＝暗記教科という図式が出来上がる。大学生でも、「社会科教育研究1」を受講した学生の多くは、社会科の授業は黒板を写す授業であったり、定期考査は教科書や授業の内容をいかに多く覚えるのかという内容だったと記憶している。では、

果たして社会科は暗記教科なのであろうか。

3. 学習指導要領を見てみよう

3年生以上の皆さんは、教科教育研究または教科教育論の講義で必ず「学習指導要領解説」を目にしたことがあるだろう。教師になるためには、この「学習指導要領解説」を読みこなさなければならない。学習指導要領には教科の目標が必ず載っている。この教科の目標をもとに、学習内容が書かれている。では、中学校社会科を例に教科の目標を見てみよう。

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

この文章は、まず最初に生徒たちが生活している地域社会や国家、国際社会で起こっているできごとに興味・関心を持たせなさいと書かれている。そして、生徒が疑問に思ったことについて調べて、調べた結果を分かりやすくまとめさせることが書かれている。さらに、中学生が卒業した後、地域社会や国家、国際社会で生きていくために必要な知識や技能を社会科で身につけさせなさいと書かれている。つまり、教科の目標は「小・中・高等学校を卒業した後で、この教科の学習をすればこんな人になれるよ。だから、こんな人になるために必要な知識や技能を身につけてくださいね。」と授業で育成すべき生徒像や能力について書かれているのである。この目標をもとに、教科の中でどんな知識や技能を身につけるべきかが具体的に書かれているのである。

4. 授業を作る上で大切なことは何か？

実際の授業ではこの目標をもとに、どんな授業をすればいいのか。教える内容はたくさんあるから、生徒に知識を教えることで一杯だという学生も多いであろう。私は、普段の授業実践で大切に思っているのは、児童・生徒の「興味・関心」である。もともと、「人間は知らないことをもっと知りたい動物だ」ということを聞いたことがある。初めて出会う学習内容に、児童や生徒たちは「先生、何

でそうなるの？」と聞いてくる場合がある。小学校社会科の実践者で有田和正が、「はてな」の追求（註）を大切にしている。言い換えれば、「はてな」の追求＝社会科の授業ということになる。であるから、授業の一番最初の発問は、児童や生徒たちにとってとても重要なのである。

では、授業の発問さえ良ければ、一単位時間の授業は上手くいくのであろうか。教師の発問をもとに、生徒が発問の答えを見つけようと必死に考える。しかし、一人で考えるのには限界がある。そこで、複数のグループになって自分の考えが正しいかどうか話し合ってみる。考えが正しいかどうかを確かめる根拠として、教科書や資料集を使うのである。教師が知識を教えるために、児童・生徒に黙って前を向かせて話を聞かせる授業も時には必要になる。しかし、児童や生徒は「知りたい」という気持ちを持っているし、自分の答えが正しいかどうか不安な気持ちがある。そこから、生徒同士の話し合いというのが必要になってくる。では、教壇に立ったことがあまりない学生の皆さんにとって、授業をどうすれば上手くいくのだろうか。

5. 教材研究を大切に

私が社会科教師になったとき、どうにかして生徒に興味・関心を持ってもらおうといういろいろな本を読み漁った。その日の1時間の授業を組み立てる際に、歴史であれば、授業で登場する人物の裏話をするために歴史の専門書を読んだ。さらに、生徒からどんな質問をされてもいいように、高等学校の教科書や大学受験の参考書を読んだ。とにかく授業を作るためには、たくさんの教材研究が必要である。私が教育実習生の頃は、インターネットなどなかったため、どうしても本に頼る必要があった。しかし現在では、インターネットであらゆる情報を検索することができる。だが、私はインターネットに頼る教材研究はあまりお勧めできない。

やはり教材研究には活字を読むのが一番である。インターネットの情報は、活字の本より新鮮味がある。しかし、膨大な情報量であり、その情報の正確さが求められる。活字には、知りたい情報がしっかり書かれており、情報の真偽も確かめられていることが多いから、教材研究には最適である。ただし、インターネットの情報を全面的に否定はしない。インターネット頼りになるのが危険である。

授業の方法論を学ぶのであれば、教科に関する教育書を読むのが参考になる。私は、教壇に立って間もない頃、よく『授業のネタ』や『1単元の授業』という本を買って読んだ。この本を読むと、教材研究の方法や授業展開の方法が書かれている。社会科だけでなく、他の教科でも同じような書籍が本屋で販売されている。教材研究には、ぜひお勧めである。

6. むすびにかえて

本稿の最初の問い「あなたはどんな教師になりたいのか？」に学生の皆さんは答えられるか。私も教員をしていて、部活動も、担任も、生活指導も頑張りたい。しかし、教師の一番の仕事は、授業である。授業の中で、人間関係が生まれ、信頼関係が生まれる。授業を通して、部活動指導や普段の生活指導が生かされる。私の勤務校の生活指導主任がよく口にする、「生活指導も部活動も大事。ただし、授業はできて当たり前」という言葉がある。部活動に一生懸命な先生ほど、実は教材研究を良くやっている。授業の空き時間や放課後の時間、部活動が終わった後で先生たちは教材研究をしているのである。「専門教科はできて当たり前」だから、学生のうちにたくさん本を読み、できれば現職の先生方の授業をたくさん見てほしい。それが、よりよい教師になる第一歩であると私は考える。

註

有田和正の「はてな」の追求は、筆者が愛知教育大学大学院生時代に、有田氏の「生活科教育特論」の講義の中でよく耳にした言葉である。

参考文献

- 文部科学省編『中学校学習指導要領解説社会編』2008年 日本文教出版
- 川島孝郎・安井俊夫・石井郁男編『ストップ方式による教材研究の1単元の授業 21 中学社会・公民』2001年 日本書籍株式会社
- 授業のネタ研究会編『授業がおもしろくなる 21 中学授業のネタ 社会 1 世界地理・歴史・公民』2001年 日本書籍株式会社

専修大学教育学会に出席して

文学部英語英米文学科2年 村松 秀規

専修大学教育学会に出席して、全体を通して、現場の生の声を聴くことができ、非常に勉強になりました。実際に、現場で指導にあたっている先生方のお話は、教員を目指す自分にとって非常に新鮮で印象の強いものとなりました。

午前中の研究会では普段の授業ではあまり扱わない内容のものが多く、研究会に参加しなければ聞くことができないものばかりでとても勉強になりました。小学校では複数の教科を受け持ちながら学校の事務や行事等の仕事をこなさなければなりません。非常に多岐にわたる仕事がある一方で、生活指導もきちんと行わなければならないということなので、先生方の日ごろの苦労や苦悩がよくわかりました。児童だけではなく保護者間のトラブルも現場の教師が解決することがあるということに驚きました。特に小学校の場合は指導要領の改訂があったうえ、土曜授業の復活など現場の状況は変化しつつあるので、それに伴って教師に求められるものも変化していくように思いました。

いじめと向き合うという問題は、いまや社会現象となっています。特に、このお話は北本先生の強烈なトーク力で印象深いのですが、問題の解決や生徒達を正しい方向へ導くのも、すべて現場にいる教師の腕次第であると感じました。いじめに関しては本気になって向かい合い、中途半端な気持ちで生徒に接しているのではダメだと感じました。「四層構造」の特徴を知り生徒との信頼関係を大事にすることが大切です。

また、通信制高校の需要が近年上昇してい

ることにとても驚きました。教師を目指すうえで縁のないものと思っていましたが、教育現場に携わるうえではもっと関心を持たなければいけないと思いました。また、特別支援教育に関しても同じことが言えます。あまり、なじみのないものですが現場で行われている様々な工夫に感心しました。そのなかでも特に教材研究や組織力の向上への取り組みは、普通学校でもとても大事な事なので覚えておきたいと思います。

パネルディスカッションでは、これから教師を目指す人にとって厳しい現実を見せられましたが、一方で、より教師になりたいと思える現場での体験等もお話しいただいたので、とても良い刺激になりました。若手教師を育てて行くためには、中堅層やベテラン組がきちんとフォローしていかなければならないことや、これからますます新任の教師が増えることなど、現場にいる人たちが意見を交わしあっているところを実際に見聞き出来たことは、やはり教育学会ならではの非常に貴重な体験でした。「自分ができないことは生徒に教えることはできない」という言葉が特に自分の中で印象に残っています。まずは人として当たり前のことであるあいさつや礼儀をきちんとしたい。これはどこにいても言われることですが、近年の若い教員や実習生が出来ていないということなので、教壇に立った時に恥ずかしい思いをしないように普段から心がけるようにしたいと思います。

学会が終わった後の祝賀会では、何人かの先生とお話しさせていただきました。私立高校と公立高校で働くうえでのそれぞれのメリット、デメリットや、普段なかなか聞けないやや踏み込んだ質問にもお答えいただきました。しかし、まだまだ慣れないせいかあまりたくさんの人から話を聞くことができなかったのも、次回はもっと積極的に話せるようにしなければいけないと反省しました。今日一日を通して、たくさんのことを吸収することが出来たので、これからもこのような機会を積極的に活用して、より一層教師という夢に近づけるように努力していきたいです。



教科研修生体験レポート

文学部日本文学文化学科3年 控井 健太

私は2012年9月から2013年1月まで神奈川県立座間総合高等学校で、毎週水曜日、一年生の国語の授業を教科研修生として見学させてもらいました。ここでの研修で感じたことや伝えておきたいこととお話したいと思います。私は1年生の3クラス、3人の先生の授業を見学させてもらいました。まず、最初に見学した感想は3人3様の授業をしているということです。ちょうど同じ単元を扱っているのですが、ある先生は絵や図など手作りの教材を使い、またある先生は本文の要約をさせたり。そして授業終了後、各先生方とお話する機会がありました。「体育のあとの国語は大変よ」「行事の前は、生徒は行事に集中しちゃってるからねえ」「今日、〇〇さんは気分が乗ってくれていたわ」と大学の授業ではわからない実際の日常のなかでの生徒の様子や授業のやりにくさなどをお話していただきました。3人の先生方が共通していたのは、随時生徒の観察をしていることでした。眠そうな生徒がいたら話しかけたり、すこしざわついていたら、ざわついていたメンバーを指名したりするなど、常に生徒の観察をしていました。私は授業をしていないので生徒の様子を容易に見ることができます。しかし先生方は授業をしながら生徒の様子を観察していました。これは、自分が生徒だった時にも先生方がやっていたと思いますが、研修生の立場として見て初めて気付きました。幸運なことに、私は1コマ授業をさせていただく機会をもらいました。この時に感じたことは、大学生と高校生はやはりちがうなということです。私は大学の授業で模擬授業をやっていました。しかし実際、高校生を相手に

授業をしますと・・・予定通りに進まない。生徒の様子を見ながら授業をしていきますと準備していた3分の2程度しか終わりませんでした。授業終了後、先生方から「いやぁー詰め込んだねえ。分かるよその気持ち。でも言いたいことは1つや2つが限界かな。50分だと。」などのコメントをいただきました。また指名の方法やクラスの違いに応じての授業展開の仕方など、多くのご指摘をいただきました。またこの授業をしてから、生徒との距離が縮まり、生徒との休み時間での会話が増えました。現在の高校生の意見や考え方は自分の時と同じ部分も多々あり、なぜか安心しました。

まとめますと、私が教科研修で学んだことは3つあります。

- ①教科指導：生徒にわかりやすくするための工夫や授業で言いたいことの限界
- ②授業中の指導：生徒への指名方法やクラスに応じての授業展開
- ③大学で学ぶことのできる限界：実際の現場で初めて感じることのできるもの

最後にみなさんに伝えたいことは、この教科研修以外にも、いろいろな学校現場に行ける機会はたくさんありますが、4年生で教育実習に行く前に学校現場に触れる機会はそうそうないということです。ですから時間があれば、実際に教科研修のようなものにぜひ参加してください。

多摩区・3大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート

文学部人文学科哲学人間学専攻4年 谷本 七海

はじめに（ボランティアの動機）

私は4年生の8月の終わりから週1日、金曜日の午前中に川崎市立生田中学校へボランティアに行っています。私は普段アルバイトで幼児や小学生と関わる機会はあるのですが、中学生との関わりは主に教育実習だけでした。期間の短い教育実習だけでは中学生の現状を理解するのは不十分だと実感し、もっと教育現場に携わりたいと思い、ボランティアに参加することにしました。当初は普通級での支援を望んでいたのですが、学校側のニーズが特別支援級にあり、また私自身も特別支援に興味があったので、特別支援級でボランティア活動をさせて頂くことになりました。



ボランティアの内容と生徒の様子

私の活動内容は授業補助です。具体的には体育と一緒に卓球を行ったり、国語の漢字ドリルと一緒に解いたり、教科書の音読をしたり、プリントの丸つけ、普通級での授業の時に見守ることなど、時間割や授業内容に合わせて支援が異なります。生徒もそれぞれ個性が異なり、集団が苦手な子もいれば、勉強が苦手な子、落ち着きがない子、自閉の傾向がある子、足が速い子、社会が得意な子、おしゃべりな子、アニメが好きな子、様々です。

特別支援級と聞くと、皆さんはどんな生徒を想像するのでしょうか？抵抗があったりするのでしょうか？私の実感としては通常級の生徒と変わりはありません。皆と同じように個性があるかわいい生徒たちです。

学校教育ボランティアから学んだこと

私がボランティアを行って気づいたことは、特別支援級は普通級よりも礼儀や言葉遣いに気を付けていることです。例えば、先生など目上の人のために口をきいていると、厳しく叱られます。何故かというと、彼らが社会に出たときに身につけておかないと不利になるからです。少し大げさな表現かもしれませんが、彼らには生活の全てが勉強だということがあるのです。だから、先生方も落ち着きがなかったり、言葉遣いが乱れているととて

も厳しく説教します。社会に出たときにそのままだったら、彼らの為にならないからです。ただ感情に任せて怒っているのではなく、生徒のことを思ってなのです。生徒のためを思って心を鬼にすることの大切さを改めて学びました。生徒にどう嫌われようが、その子のためを思って行動する。これが教員というものだと感じました。

また、特別支援級に通う生徒の特徴の実際を学びました。例えば特別支援級に、教室のドアを完全に閉めず少しだけ開けておく生徒がいます。完全に閉めるように言っても、やはり少しだけ開けておくのです。ある時、生徒の一人が「あれは〇〇さんのこだわりだからね」と言いました。その時、広汎性発達障害の特徴の「こだわり」とはこういったものだと思に落ちました。それまでは「こだわり」があると頭では分かってましたが、実際にこういったものなのか想像があまりつきませんでした。実際に生徒と関わる事で学ぶことが本当に沢山あると、感じています。

おわりに

特別支援級の生徒と関わることは普段あまりないと思います。しかし実際の学校教育の現場では、支援を必要とする生徒が増えています。教員になった場合、特別支援級の担当になる可能性もあります。通常級にも発達障害などを抱えた生徒が在籍しているのも現状です。その意味からしても特別支援級でのボランティアは、彼らを理解する機会を与えて貰える貴重な場です。何より学校や生徒に関わることができます。

私はボランティアを始めた際、「自分は教員に向いていないのではないかと、諦めた方がよいのではないか」と思っていました。しかし生徒たちの笑顔にとっても勇気を貰いました。日々見せてくれる彼らの成長や変化を見られる事がとても幸せです。

教師を目指している人、そうでない人も思い切ってボランティアをやってみる事をお勧めします。想像以上の収穫があると思います。



専修大学附属高等学校から

目的から目を離さぬように

私立専修大学附属高等学校 教諭 間嶋 誠

私は、平成20年から専修大学附属高等学校の教員として英語を担当しています。教員という職業に就いてから事毎に思い出されるのは、私が中学生の頃にお世話になった恩師の「目的から目を離さぬように」という言葉です。このたび、教職課程履修生へのメッセージとして本稿を書かせて頂くことになり、経験の浅い私から何を伝えるべきか迷いましたが、「目的から目を離さぬように」という言葉とともに、現職教員としての取り組みを紹介させて頂きたいと思います。

私は現在、通常授業のほかに土曜講座（土曜日に本校の生徒が受講する選択式の講座）で「異文化理解」という授業を担当しています。この講座は今から2年前にスタートしました。当時の本校の土曜講座では、英語のスキルアップや資格取得の講座が中心であり、教養を主にした講座はありませんでした。そのような中で、「どうしても教養の講座をやりたい」という願いから企画したのが異文化理解でした。この講座をはじめのきっかけとして、読む・書く・聞く・話すといった4技能の習得だけでなく、歴史や文化の側面からも深く学ぶ必要があるのではないかと感じたことが挙げられます。いわば、英語の4技能習得と異文化理解を車の両輪として、相互に補完できたという狙い（目的）があったのです。



土曜講座「異文化理解」

しかし、実際に授業を運営していく上で課題もありました。本来なら、異文化理解を深めるためには海外留学を体験することが近道だと思われるのですが、受講する生徒の全員が好機に恵まれるわけではありません。そこで、授業の中で効果的に異文化を学ぶ手法が必要となりました。現在、講座ではカルチュラル・スタディーズの領域を応用しながら学んでいます。ここで言うカルチュラル・スタディーズとは、文学理論や映画理論、音楽、



異文化理解授業風景

芸術学などの分野を、それぞれ横断しながら多角的に学ぶことを指しています。授業の中で異文化を容易に学べるものとして、映画や音楽、小説などは格好の材料でした。例えば何か一つの映画を鑑賞し、その中から日本の文化との異なる点を見出しつつ学びを深化させていくことは、大変魅力的な手法だと言えると思います。ただし、何事も漫然と見てしまっただけでは意味がありません。自国の文化と照らし合わせて「なぜ」なのか、「どうして」なのかという疑問を常に感じながら、異文化の出すサインを見逃さぬよう鑑賞するという「視点」が重要なのです。ポスト産業主義社会である現代では、グローバル化に目を向けるだけでなく、同時にローカルにも目を向ける「グローバルな視点」から考えることが重要となってきています。異文化理解の授業においても、異文化を学ぶ中で自国の文化に対する無知が浮き彫りになることが多々ありました。そのような時にこそ、あらためて教員として学ぶべきことの多さを痛感します。教員という仕事が、教えることのプロであるのと同時に、学び続けなければならない、学びのプロでなければならないということに気付かされます。このように感じる中で、如何にして異文化理解の授業を充実させるかが、今の私にとって大きな目的になっています。

教職課程を履修する皆さんには、ぜひ教員として目的を持つこと、その目的から目を離さずに邁進されることを願っています。現代の教育事情は多様で、年々複雑になっています。大変なことの多い職業ではありますが、大変な分だけやりがいもあるかと思います。生徒だけでなく、教員も困難や課題から様々なことを学び、吸収する、学びのプロであってほしいと思います。私自身、今後も目的を忘れることなく、学び続けていきたいと考えています。





司書・司書教諭課程

司書課程における新カリキュラムの概要

文学部 教授 荻原 幸子

1. はじめに

司書課程では、本年度から新しいカリキュラムに移行した。昨年度までのカリキュラムに至る経緯は本年報の Vol.13 に示されており、“現在は新カリキュラムの検討作業を行っているところである。”として終わっている。本稿ではその内容を引き継ぎ、今回のカリキュラム改正の概要を、その後の新たな展開として記録にとどめておくことを目的としている。(なお、新カリキュラムの適用対象者は、平成 24 年度以降の入学者である。)

2. カリキュラム改正の背景

今回のカリキュラム改正は、平成 21 年 4 月 30 日に「図書館法施行規則の一部を改正する省令」(以下「省令」)が公布されたことに伴うものである。同省令は、「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について(報告)」(平成 21 年 2 月 これからの図書館の在り方検討協力者会議)(以下「報告書」)の提言内容を踏まえており、本学のカリキュラム改正の趣旨は「報告書」に示されている「これからの司書に求められる資質・能力」や「図書館に関する科目内容の基本的な考え方」を踏襲している。特に今回の改正では、同協力者会議による「これからの図書館像」¹⁾の内容を実現するために、図書館を改革していく担い手を養成することが期待されている点に注目しておく必要がある。

3. 設置科目

新カリキュラムでは、必修科目として 13 科目、選択必修科目として 5 科目、選択科目として 2 科目を開講する。新・旧カリキュラムの開講科目を表 1 に示す。資格の修得要件は、必修 13 科目 26 単位、選択必修 2 科目 4 単位の合計 30 単位である。

必修科目の科目名や内容は、原則として「省令」と「報告書」のとおりとした。ただし、「情報サービス演習」「情報資源組織演習」については、「省令」が 1 単位あたり 30 時間を想定しているために、「演習 1」「演習 2」と 2 科目に分割して必要な時間数を確保している。内容的にも「情報サービス演習」は、“情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサ

ービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を養成する。”とされており(「報告書」p10)、旧カリキュラムにおける「情報検索演習」と「レファレンスサービス演習」を融合した内容に刷新することを目指すことになる。「情報資源組織演習」は、旧カリキュラムの「資料組織演習」を継続するものであるが、1 科目 2 単位から 2 科目 4 単位となることで、一層の充実を図ることが出来る。現時点では、「情報資源組織演習 1」を記述目録法(目録演習)、「情報資源組織演習 2」を主題目録法(分類・件名演習)とすることを予定している。

新設された「図書館情報技術論」は、“図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等”を内容とし(「報告書」p9)、講義科目ではあるが情報科学センターの端末室での演習も含まれる。

一方で、必修科目であった「専門資料論」は廃止され、その内容は「図書館情報資源概論」や選択科目の「図書館情報資源特論」に吸収される。「図書館制度・経営論」と「図書館情報資源概論」は、それぞれ旧カリキュラムの「図書館経営論」「図書館資料論」を引き継ぐものであるが、前者には図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策についての解説(=制度論)が新たに盛り込まれる。後者については、ネットワーク情報資源を内容として含むことを明示する意図がある。「情報資源組織論」「情報資源組織演習」の科目名についても同様である。

選択必修科目は、“必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から”設置するという位置付けのもとに、「省令」で提示されている 7 科目のうちから“各大学の判断”で選択的に設置するものとされている(「報告書」p.10)。従って、本学の特徴を大いに発揮するべく検討を重ね、「省令」から「図書館基礎特論」「図書館サービス特論」「図書館情報資源特論」、司書教諭科目から「学校経営と学校図書館」「学習指導と学校図書館」を設置することにした²⁾。司書教諭科目との相互乗り入れは以前より本学の特色の一つであったが、旧カリキュラムで選択

科目としていたものを選択必修科目とすることで、司書養成における学校図書館に関する知識の重要性を、より明確に示すことになったといえる。なお、「学校経営と学校図書館」の修得単位は省令科目の「図書館基礎特論」に、「学習指導と学校図書館」は「図書館サービステ論」にそれぞれ読み替えられる。従って履修要件を、「A 分野、B 分野、C 分野のうち、2 分野にわたって 2 科目 4 単位以上」としている（表 2）。

選択科目としては、学芸員課程科目の「博物館概論」「博物館展示論」を新たに設置した。公共図書館と博物館は、ともに地域の社会教育施設であり、その機能が密接に関連していることや、学芸員に求められる専門的知識や技術は、司書の仕事においても有効であるという認識にもとづくものである。学芸員課程の内田先生、高島先生にご快諾いただいたことを、ここに深く感謝申し上げる。

4. 新カリキュラムの適用対象者

冒頭にも記したが、新しいカリキュラムは、平成 24 年度以降の入学者（現 1 年生）に適用されるものであり、昨年度までの入学者（現 2 年生以上）には引き続き旧カリキュラムが適用されるために特段の影響はない。ただし、2 年生以上の在学生在が資格要件単位を修得せずに卒業し、卒業後に科目等履修生制度や司書講習等で資格取得のための単位修得を目指す場合には、新カリキュラムの適用

となる。従来のように、不足した科目（単位）のみを修得すればよいわけではなく、少なくとも「図書館情報技術論」の修得が必要不可欠であることや、在学中に必修科目として修得した「専門資料論」は、選択必修科目（「図書館情報資源特論」）の単位として読み替えられることなどを、折にふれて伝えておく必要がある。

5. 終わりに

新カリキュラムに関する今後の課題は、各科目の教育内容をいかに充実させていくかという点にある。これまでも各科目の担当教員は随時、図書館をめぐる状況の変化に応じて、教育内容の改訂を行なっているが、今般の改正を機に、新科目の教科書等が次々と出版されている状況をも踏まえて、内容の精査や、全体のバランスを考えた調整等を行なっていく必要がある。兼任の先生方との連携・協力関係を築きつつ、一層の教育水準の向上に努めていく所存である。

- 1) 「これからの図書館像ー地域を支える情報拠点をめざして（報告）」これからの図書館の在り方検討協力者会議（平成 18 年 3 月）
- 2) 「改正司書養成科目に関する Q&A」文部科学省生涯学習政策局社会教育課（平成 21 年 7 月）に示された内容（Q46、A46）を根拠としている。

表 1 新・旧カリキュラム対照表

新カリキュラム			旧カリキュラム		
区分	科目名	単位	区分	科目名	単位
必修	生涯学習概論	2	必修	生涯学習概論	2
	図書館概論	2		図書館概論	2
	図書館制度・経営論	2		図書館経営論	2
	図書館情報技術論	2			
	図書館サービステ論	2		図書館サービステ論	2
	情報サービス論	2		情報サービス概説	2
	児童サービス論	2		児童サービス論	2
	情報サービス演習 1	2		レファレンスサービス演習	1
	情報サービス演習 2	2		情報検索演習	1
	図書館情報資源概論	2		図書館資料論	2
	情報資源組織論	2		資料組織概説	2
	情報資源組織演習 1	2		資料組織演習	2
	情報資源組織演習 2	2			
選択必修	図書館基礎特論	2	選択必修	専門資料論	2
	学校経営と学校図書館	2		図書及び図書館史	2
	図書館サービステ論	2		資料特論	2
	学習指導と学校図書館	2		コミュニケーション論	2
	図書館情報資源特論	2		情報機器論	2
選択	博物館概論	2	選択	図書館特論	2
	博物館展示論	2		学校経営と学校図書館	2
修得要件	必修 26 単位 選択必修 4 単位		修得要件	学習指導と学校図書館	2

表 2 新カリキュラムの選択必修科目

選 択 必 修	図書館基礎特論	2	A 分野	A 分野・B 分野・C 分野のうち、2 分野にわたって 2 科目 4 単位選択必修
	学校経営と学校図書館	2		
	図書館サービステ論	2	B 分野	
	学習指導と学校図書館	2		
	図書館情報資源特論	2	C 分野	

はじめに

近年、様々な大学図書館が学内外で展示会を開催している。本学図書館も長年の展示経験をもとに、2007年から学外でも展示会を開催してきた。

本稿では、大学図書館における展示活動の目的・意義、図書館司書の展示活動をめぐる現状を再確認するとともに、本学図書館が2012年に開催した展示会での新企画「音声ガイド」を取り上げ、今後の展望を述べたい。

1. 展示活動の目的・意義と対象の変化

大学図書館の企画展示の目的について、山田(2004)は、次の4つに分類している¹。

- ①貴重書紹介
- ②テーマに関する蔵書紹介
- ③利用者教育・利用指導
- ④娯楽目的

本学図書館では、通常特別書庫にあって、利用者があまり目にすることが出来ない貴重書を羅列し紹介する①の企画展示が主流であった。しかし、2000年以降、教員の協力のもと、②のテーマに基づいて資料紹介するという、ストーリー性のある企画展示が増えてきた。これは見学者にとって、より展示会が身近に感じられる要因にもなったと考えられる。

大学図書館展示の意義については、米澤(2005)が、次の3つをあげている²。

- ①啓蒙活動としての図書館展示
- ②広報活動としての図書館展示
- ③人材育成活動としての図書館展示

これに加え木戸浦(2006)は、「大学の外側に向けた目的、つまり大学図書館の地域貢献という観点から『生涯学習の場としての展示会』を付け加えることができる」³と述べている。本学においても2003年から本格的に地域住民に図書館を公開したことにより、学外の来場者が増加した。このように大学図書館の展示活動は、学内の学生や教員という対象から、今や地域住民の生涯学習の機会となり、地域貢献という視点にまで広がった。

そのことによって図書館の展示会は、社会への知識の啓蒙活動、大学の広報活動という役目を担うことになった。そしてさらに自らの図書館の存在意義を大学、社会に示すことにもなった。

2. 図書館員が展示を行うということ

展示について図書館法では、第三条6項に「資料展示会等を主催し、及びこれらの開催を奨励すること」とあるが、大学図書館は図書館法の対象に該当しない。大学設置基準、大学図書館基準においても展示に関する項目はない。これに対し博物館法では、第四条4項に、「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」とある。学芸員課程科目では展示実習は欠かせないが、司書課程には展示実習やそれに関する授業はない。しかし、ほとんどの大学図書館において展示業務が必要とされている。そうした状況のなか田中(2009)は、「図書館職員は展示会をすることが本務でなく通常の図書館業務をしながらの作業であるため、専門的な研究や十分な調査期間はほとんど取れない状態であるが、展示として求められるのは大学図書館として学術的なものである」⁴と述べている。

このように図書館での展示は、先述したよ



展示風景

うな意義があるにも関わらず、司書は展示業務について基礎知識もなく、手探りで行われているのが現状である。

3. 新企画「音声ガイド」

本学図書館では2012年5月に春の企画展「はじめて観るマニエスクリプトー世界でひとつという魅力」を開催した。開催にあたって、図書館内で展示プロジェクトチームが編成され、2011年12月から作業を開始した。

展示内容は、本学図書館が所蔵している中世の西洋写本(マニエスクリプト)から、『ポリクロニコン』(14世紀初頭修道僧ヒグデン

¹ 山田摩耶「日吉メディアセンター企画展示の変遷」『MediaNet』No.11 2004 pp.66-69

² 米澤誠「広報としての図書館展示の意義と効果的な実践方法」『情報の科学と技術』55(7) 2005 pp.305-309

³ 木戸浦豊和「東北地区大学図書館協議会合同研修会 東北大学付属図書館における企画展の取組み」『東北大学付属図書館報 木這子』Vol.31, No.2 2006 pp.7-11

⁴ 宇野文男、田中美智子「大学図書館における展示開発・その実践研究」『福井大学教育地域科学部紀要』第3部 社会科学(65) 2009年 pp.79-103



筆者とポスター制作者

が編集した歴史書)、『薔薇物語』(13世紀フランスの寓意物語)、美しい装飾を施した『時禱書』(キリスト教徒の個人的な勤行のための祈祷書)等、通常は特別書庫に収蔵されている貴重な資料14点を紹介した。また、資料に関する研究書や複製本等を手に取って閲覧できるコーナー、DVD視聴コーナーを設置した。会期中には、本学松下知紀教授と白百合女子大学篠田勝英教授による講演会や松下教授によるギャラリートークが行われた。お楽しみ企画



松下教授によるギャラリートーク

としてプロジェクトメンバーが、『時禱書』等の装飾模様を利用して、お土産用のカードを作成した。毎回行われるこの企画は好評で、制作する側もアイディアを出し合いながらの楽しい仕事である。

今回は、新企画として「音声ガイド」を制作した。キャプションの解説を補足し、更に資料と見学者を結びつける方法として長年温めていたものである。

博物館等が使用している機器は、高額のため購入は不可能である。そこで、昨今低価格のICレコーダー2台を利用した。使用方法が単純でボタン等が大きく分かりやすいものを選んだ。次に音声解説をする資料8点を選択し、それらの資料の原稿を作成した。ここでは、学術的な難しいことを解説するのではなく、資料にまつわるエピソードや背景、著者の心情等、ふっとその資料に近づけるような原稿を書くことを心掛けた。また、聴いて理解し難い用語は避け、1点1分以内でまとめた。資料の解説は、様々な資料を読み作成した。ガイドの導入部分については、渋谷Bunkamuraで開催中の「レオナルド・ダ・ヴィンチ美の理想」を観に行き、「音声ガイ



「音声ガイド」利用風景

ド」の導入と最後の部分を参考にした。BGMは、中世の写本がテーマなので、バロック音楽を選び、ナレーションは、チームの中で鮮明で温かみのある声の女性に依頼した。機器、原稿、ナレーション担当者、音楽が準備でき、いよいよ本学図書館AVルームでの収録となった。いざ収録となると「ここはもっと間をいれた方が良い」、「ルネサンスのアクセントはどこか」等、様々な意見がでた。時には吹き出して笑い、何度もやり直した。引用部分は、たまたま部屋に入ってきたメンバー(男性)を引き込み担当してもらった。声質が変わったことで、より効果的になった。ここからは、チームのシステム担当者の腕の見せ所であった。パソコンでBGMとナレーションを編集し、『グレゴリオ聖歌集』の資料解説場面では、聖歌も挿入してもらった。

展示会が始まり、「音声ガイド」への反響は大きかった。「分かり易く、資料の理解の助けとなった」「展示品の歴史的背景やBGM、聖歌の挿入は見学者を飽きさせないためにも有効だった」「美術館みたいで感動した」という声から、「ナレーションの声に癒された」という感想まで、極めて良好であった。今回は初めての試みであったので、アンケートではなく直接利用者に感想を伺った。そこで学生や地域住民の方々とコミュニケーションを図り、展示資料に関わる図書館の資料紹介等も行った。

今後の検討課題としては、次の2点があげられる。①所要時間を短縮(約15分)する。②音声ガイドで案内する資料の場所が的確にわかるようにする。これらを改善することにより、大学図書館の展示会においても「音声ガイド」を制作し、利用することが可能であるとわかった。

おわりに

図書館の展示について、筆者も授業等で学んだことがなく、基礎知識もなかった。そこで博物館や美術館を巡り、キャプションの作り方、照明、配置の仕方等を参考にした。先述した米澤があげる図書館展示の意義を踏まえて、今後司書課程科目に展示に関する項目が加わることを期待したい。

また、展示活動は、クリエイティブな作業であり、アイディア力、企画力、専門知識力が発揮できる場でもある。今回の「音声ガイド」制作に当たっても日常業務では見えない個人力が発揮された。人材育成としても有効であるといえる。

今後、資料の電子化が進む中、司書は、様々な資料と利用者を結び付けるコーチ(学習者を目的地に運ぶ道具・馬車)の役割を担っている。展示会もその一つの方法である。図書館司書は、利用者に対して何ができるかを常に考え、とどまることなく進化していく図書館をつくる存在でありたいと思う。

図書館実習を終えて

日本点字図書館 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 櫻庭 瞳子

私は、8月後半の5日間、東京都新宿区高田馬場にある社会福祉法人日本点字図書館で実習させていただきました。日本点字図書館は、視覚に障害をお持ちの方や、活字を読むことが困難な方のために、点字図書や録音図書を提供している日本で一番大きな点字図書館です。司書課程の授業で学んだような公共図書館や専門図書館とは、扱う資料も利用者ニーズも異なる図書館での実習は、図書館の在り方をあらためて考え、今まで知らなかった世界が開かれた、貴重な経験となりました。



実際に点字を打っている様子

日本点字図書館は、1940年に本間一夫氏が借家に「日本盲人図書館」を創立し、点字図書700冊、書棚4本で開館しました。今日では、蔵書数約8万冊、ボランティアを含め約120人のスタッフで運営される巨大な図書館となっています。実習期間中には、録音図書や点字図書の出納や、書誌業務、レファレンスなどの様々な業務を体験する事ができました。

一般の図書館との大きな違いは来館者が少ないことです。日本点字図書館は、日本全国の利用者から電話や手紙を受け、図書の貸出を行っています。利用者の多くが目の不自由な方のため、ほぼすべての貸出業務は郵送での扱いとなっており、書架は閲覧室などを除き閉架式となっています。

現在の貸出資料の主力は録音図書(DAISY)で、同じ形のプラスチックケースが排架されており、貸出や返却の際は、そのケースごと郵送できる仕組みになっていました。また、点字図書も多くの利用があり、文庫本1冊分の本が、点訳され分厚いファイル2~3巻に収められている図書の、汚れの確認や書庫への返却作業は大変な重労働でした。毎日全国からの大量の返却と貸出を繰り返しているスタッフの方々の、作業に徹したきびきびと動き回る姿が印象的でした。

書誌業務では、目録作成の流れを体験しました。目録は目の不自由な方たちにとって、本の内容を掴むのに一番重要な手がかりで

す。スタッフの方々は、同音異義語を使用せずに、より簡潔に分かりやすく本の説明をしようとしていらっしゃいました。

録音製作課では、実際に録音図書を作成しているスタジオを見学しました。ボランティアの方が録音するための個室があり、年配の方でも一人でパソコンを操作し、録音を行っているそうです。録音した音源を職員の方が一単語ずつイントネーションなどのチェックを重ね、編集する事で録音図書は完成します。また、点字図書の作成現場も見学しました。昔はひとつひとつ手打ちで点字を打っていたそうですが、現在ではパソコンで点訳を入力し、点字印刷機で一気に印刷できるようになっています。これらのデータはWeb上のサピエ図書館にアップされており、会員が自由にダウンロードして利用できるサービスもあります。このような、全国の方がより多くの本と出合えるようなシステムがある事を、はじめて知りました。

館長は「点字図書館という場所がある事を覚えておいて欲しい」とおっしゃっていました。私たちが普段の生活の中で、日本点字図書館に足を踏み入れるきっかけは少ないと思います。しかし、私は多くの方に是非ともこの図書館へ足を運んでみて欲しいと考えています。図書館内で業務を体験し、働く方々のお話を聞く中で、ランガナタンによる図書館学の5原則の中の「いずれの読者にもすべて、その人の図書を」と「いずれの図書にもすべて、その読者を」そして、「図書館は成長する有機体である」を強く感じる事ができたからです。どんな人にも読みたい本を読んで欲しい、そのために効率的な働き方を考え実行し、利用者の声を聞き、より伝わりやすい情報を提供できるよう尽力している姿に、図書館学を学んだ方であれば誰しも感動を覚える事と思います。

5日間という短い期間でしたが、日本点字図書館で実習を行えた事を大変うれしく思います。点字図書館の皆様、そして実習まで支えてくださった皆様に深く感謝申し上げます。



点字図書を読んでいるところ

學藝員課程



教育普及活動から見た学芸員の職務

埼玉県立さきたま史跡の博物館 学芸員 岩松 大輔（平成23年度文学研究科歴史学専攻修了）

1. はじめに

私は専修大学大学院修士課程修了後、埼玉県立さきたま史跡の博物館で臨時採用の学芸員として勤務しています。臨時採用ということで短期間の職場ではありますが、大学院で専攻していた考古学に博物館運営という立場から携わることができる貴重な場として、日々業務に励んでいます。ここでは、資格課程を受講している皆様に、学芸員の視点から見た博物館運営についてご紹介したいと思います。

2. 仕事の概要

私が勤務している埼玉県立さきたま史跡の博物館は埼玉県行田市にあります。当館は、埼玉古墳群に併設する形で、国宝に指定されている金錯銘鉄剣をはじめとする稲荷山古墳の出土品を中心に、埼玉古墳群全体の考古遺物を展示しています。埼玉古墳群には現在、8基の前方後円墳と1基の円墳が残っており、5世紀後半～7世紀初頭まで継続して古墳が築造されています。現在までに埋葬施設まで発掘調査を行っているのは古墳群中最古の稲荷山古墳（5世紀後半）と將軍山古墳（6世紀後半）の2基のみです。それぞれの埋葬施設からは金錯銘鉄剣・画文帯環状乳神獸鏡・挂甲や馬冑・蛇行状鉄器・銅鏡などが発見されており、それらはすべて当館で収蔵・展示しています。現存する遺跡とその出土品を同時に見られるという意味では考古学の博物館としては最も理想的な形態といえます。その中で私は広報・学習支援担当という部署で主に、小学校団体の受け入れや展示解説、勾玉づくりなどの体験学習の指導などを行なっています。その他にも、史跡探訪という史跡を徒歩で巡るイベントのコーディネーターや他の博物館から送られてきた広報紙の掲示、各研究機関から受領した図書の管理、企画展示用の資料の借用など、その仕事内容は多岐にわたります。

その中でも、メインの仕事である体験学習の指導・展示解説はまさに博物館の第一義ともいえる教育普及活動にあたるものです。当

館では体験学習の主だったものとして、勾玉づくりを常時行っています。これは板状に加工された滑石と呼ばれる石を、ヤスリを使って勾玉の形に削っていくもので、歴史系の博物館では大部分の所が行っていると思います。滑石という石はとても軟らかい石材であるため、力のない子供たちでも容易に削ることができます。また、古墳時代の勾玉の材料としても用いられていたため、体験用の石材としては最適なものです。しかし、つくり易いという反面、単調な作業になり、ただ勾玉をつくって終わりということになってしまいがちです。そのため、指導する側は古代の人々がどのようにそれをつくり、何に用いていたのか、といった基礎的な知識を参加者の方たちに説明し、理解してもらう努力をしなければなりません。それを怠ってしまえば、勾玉づくりが教育普及活動とは言い難いものとなってしまいます。可能ならば、のみ状工具や刀子、砥石といった玉造工人たちの道具を用いて、原石の状態から加工するといった、当時のつくり方を体験してもらうのが最も理解し易い方法なのですが、短い体験時間の中でそれを再現するのは極めて困難です。そのため、どこの博物館でも勾玉づくりは、石をヤスリで削っていくという単調な作業になってしまいます。当館では1時間20分の作業時間をとっていますが、参加者の中には時間内に飽きてしまう人もいます。いかにこの作業時間を有効に使って参加者の方たちに勾玉の情報を理解していただき、有意義に作業ができる環境が作れるかが博物館側の課題といえます。

話は少し変わりますが、私はもともと修士課程において、古墳時代における石製模造品という遺物について、研究していました。石製模造品というのは、滑石を用いて農工具や武器・武具などをミニチュアで模倣した祭祀遺物なのですが、その中には勾玉形のものもありました。そのため、自分の知識を活かして、製作遺跡から出土した当時の道具の写真や製作工程のイラストをパネルにしたものを作成し、時間内になるべく簡潔に説明して理

解してもらうような工夫をしました。また少しでも、古代の人々のつくり方を体験してもらうために、勾玉に紐を通すための穴あけは弓錐と呼ばれる古代の火おこしの技法で、実際に自らやってもらうようにしています。それ以外にも、参加者の多くが子供たちであることから、安全性を考慮して道具の変更を行なうなど、より良い方法に改善していくことを考えながら、常に試行錯誤しています。

勾玉づくり以外にも、子供向けの体験学習として毎月一回、火おこし・古代衣装や甲冑の試着・土器づくりなどのイベントを行っています。こういったイベントを通して子供たちに少しでも歴史に慣れ、親しんでもらうように心掛けています。また、生涯学習という観点から、趣味で考古学を学んでいる方向けに学芸員による講座も開講しています。年齢層を問わず、どなたでも考古学を学ぶことができるような事業を展開することで、「誰にでも開かれている教育」という公共性を実現することが目的です。

前述したように、博物館が教育普及活動を行なうためには、来館者にとって最適な学習環境をつくる必要不可欠となってきます。来館者の様子も、社会科見学で訪れた学生や生涯学習の一環で見学に来た高齢者、史跡公園を散策して休憩がてら利用する家族層など様々です。そのため、来館者層の多様化に応じて博物館が求められるニーズも多様化していきます。日々変化していくそういったニーズに応えるべく試行錯誤していくことで、良質な教育普及活動が実現できるのだと思います。例えば、子供たちが体験学習を行っている間、付き添いの保護者の方たちが飽きないように、休憩スペースに考古学関連の雑誌や学習用パソコンの設置を行なうことや、目の不自由な方向けに直接触れることのできる土器の展示をする、高齢者向けにキャプションを大きくしたパネルを設置するなど、常に来館者の反応を見ながら、改善をしていく。そういった来館者の立場に配慮した細かな気遣いをしていくことで、より良い見学環境を提供できるよう心掛けています。

近年、予算の縮小などで展示品を入れ替えるだけといった活動の博物館も珍しくありません。そのような中で保守的な博物館運営に捉われず、来館者の方たちにとってより良い方向へ常に変わり続けようという姿勢が、このさきたま史跡の博物館にはあると思います。

以上のように、私が普段行なっている業務は、資料の収集や展示活動といった、皆様が想像しているような学芸員の仕事とは少し異なるものだと思います。学芸員のことを雑芸員と揶揄することがよくありますが、まさにその通りで自分の専門とする仕事だけしていれば良いというわけではありません。大部分の博物館では、来館者の方たちが見学しやすくするための環境作り、博物館で行われている事業を外部に発信していくためのPR広報活動など、さまざまな業務を学芸員が行なっています。そのため、学芸員の負担も大きくなりますが、その分やりがいのある仕事となっています。

3. おわりに

私は臨時採用職員であるため、現在も就職活動を行いながら勤務をしています。少しでも早く就職できるに越したことはありませんが、この職場で得られた経験は決して無駄なものではなく、どのような職種にも関わらず何らかの形で結びつくものだと思います。学芸員にしても埋蔵文化財専門員にしても決して採用人数の多い職種とは言えませんが、諦めないでチャレンジすることは必要だと思います。そのために、一時的にしても臨時採用や嘱託職員などの職に就くというのも1つの選択肢だと思います。その過程で得た経験は、自身の人生観にとっても必ずプラスになることです。こういった職種でも共通することですが、その職に就くことを自身で強く希望するのであれば、すぐに結果が出なくても諦めることなくその道への就職活動が続けてほしいと思います。

博物館実習を終えて

東京都神代植物公園 文学部日本文学文化学科3年 里 友紀子

6月11日（月）から24日（日）の内の10日間、東京都神代植物公園で博物館実習を行いました。私は文学部に所属しており、植物の専門的な勉強などしたことがありませんでした。神代植物公園でも、多くが植物を専門としている人が実習に来るということで、私のような文学部の学生が来ることは珍しいことだったようです。やはり専門の勉強をしている人が実習優先ということで、私はもしかしたらここで実習ができなかったかもしれませんでした。しかし私の研究テーマが植物と関係があり興味があること、「植物園」という博物館はどのような施設であるのかを知りたい、という理由から神代植物公園を希望したことを担当の方に話しました。神代植物公園では6月と8月とに実習が行われており、6月は誰も希望者がいなかったということで、文学部の私でも実習生として受け入れてくださいました。

大学の授業では博物館や美術館といった「博物館」については学びましたが、植物園についてはほとんど触られていませんでした。植物園にとっての展示物・資料とは植物です。実習では植物の扱い、剪定や展示について、そして施設設備、売店の業務など様々なことを学びました。さらに実習期間中に台風が来たため、自然災害時にどのような被害があり、危険があり、対応するのかということも学びました。館内に資料を展示する博物館と違い、植物園の植物は外に展示されているため台風の影響が大きくでてしまいます。実際、展示小屋の倒壊や樹の枝が落ちたりといった被害に遭っていました。しかし台風の翌日で歩道に大小の枝が落ちていても来園者は見学に来ます。来園者への安全を第一に確保しなければならないため、迅速にかつ注意を払って被害の処理を行わなければならないのです。台風という想定外の事態でしたが、とても良い経験をしました。

もうひとつとても良い経験をしたことがありました。「苔玉作り教室」というイベントに参加したことです。30人ほどの参加者に苔玉の作り方を教えました。苔玉というのは、1、2本の苗が植えられている土を団子

のように丸め、その上に平らに広げた苔を巻いて最後に糸でぐるぐると苔が落ちてこないように、固定して作ったものをいいます。あらかじめ苔玉作りの練習を行い、参加者にどのように伝えたらわかりやすいか、また参加者に質問されるかもしれないことを想定し、どのように答えたらよいかということを考えました。参加者の中には子供もいるので、子供はどのようにしたら作りやすいかも考えました。また苔の中には小枝も交じっているので、ケガをしないように苔の中から取り除くこともしました。どんなに小さくてもケガをする可能性はあります。安全性のためにしなくてはいけない作業でした。事前に教え方などを練習していても、教えるということは難しいことです。参加者とのコミュニケーションをとる良い機会だったので、参加者が楽しめるように会話をし、参加者と一緒に苔玉作りを楽しみました。このイベントは1時間半ほどで終わりましたが、これを行うにあたっての準備で前日のほとんどを費やしました。一つのイベントを成功させるためには時間をかけ、どうすれば参加者が安全に楽しんでくれるのかということを考えなければならない、ということを知りました。

自分の専門分野とは違うところでの実習でしたが、だからこそとても多くのことを学べ、興味・関心の幅が広がりました。また授業では「植物園」について詳しく勉強しなかった分、実習という形で植物園についての事を勉強することができ、本当に良かったと思います。



苔玉

博物館実習を終えて

野外博物館 北海道開拓の村 文学部哲学科3年 木下 貴之

私は、北海道開拓の村で10日間の博物館実習を行いました。北海道開拓の村は野外展示型の博物館で、北海道の開拓期以降の建物を約50戸展示しています。展示は市街地・漁村群・農村群・山村群のエリアの4つに分けられており、建物が元々建っていた地域と近いエリアに展示されています。そのため、建物そのものだけでなく、周辺地域の様子も再現されています。建物は全て、北海道の開拓期以降の建物である事は共通していますが、年代には多少のばらつきがあるので、各エリアの建物の年代ごとの変化なども読み取る事ができます。また、この博物館の特徴の一つにボランティアによる解説があります。ボランティアの方々がいくつかの建物で、実演展示や解説を行います。自分が実習に行った期間にはちょうど蚕の展示が行われており、蚕を育て、繭を作り、そこから絹糸を作るといった一連の作業を行い、同時に解説を行っていました。他には、交番の解説を行うボランティアであれば、当時の警官の制服を着ており、展示の一部としても活動していました。

実習では、学芸員として博物館内で関わる様々な仕事の体験をさせていただきました。具体的には、展示・撤収・調査・解説・資料取り扱い・プレゼンテーション・農作業など多岐にわたります。この中でも特に印象的だったのが解説と資料取り扱い、そして農作業でした。解説では、実際に北海道開拓の村の建物を一つ選び、実習期間のほぼ全ての空き時間を使い調べて、他の実習生や学芸員を相手に解説を行う実習です。ボランティアの方に教えていただいたり、建物に関連する資料を学芸員の方に借りたりして準備をするのですが、調べた内容の中で少々怪しい内容があったり、表現が大袈裟に記載されているものもあり、学芸員として正しい情報を選び、自分らしさのある解説をする必要があります。そのため普段以上に情報の選択に気を使いました。資料の取り扱いでは、掛け軸・杯・手

紙などを主に扱いました。それぞれの資料を扱う上での注意点や方法などを教わったのですが、作業室だけではなく、館内に展示されている建物の一室でも作業をしました。その時、学芸員の方から野外展示で本来の姿のまま展示する問題点なども教えていただきました。例えば、部屋の中の装飾には絵などもあります。来館者の方々がその絵に直接触れることは無いとはいえ、決して保存に理想的な状態ではないため、だんだんと傷ついていきます。この時、保存の為にその装飾品をしまった方がよいのか、展示の為にそのままにすべきなのか、などが課題として考えられました。農作業は学芸員の仕事なのかと疑問に思うかもしれませんが、北海道開拓の村では当時の文化や生活も伝えています。館内にはいくつかの畑があり、そこで収穫された野菜を使い、秋に収穫祭というイベントを行います。そのため収穫祭の準備として畑で育てた野菜の収穫をしました。自分が手伝ったのはジャガイモとトウモロコシとトマトでした。とくにトウモロコシは札幌八行という種類であり、開拓期に食べられていた種類でした。農作業はボランティアさん主体で行われているようですが、完全に任せているのではなく、学芸員の方とボランティアの方とで協力をしつつ行われていました。

私は今回の実習を行い、私が最大の収穫だと思ったのは学芸員の仕事を直接目のあたりにできた事です。学芸員の勉強をする中で、なんとなくこんな仕事であろうと学芸員のイメージを自分の中で形成していたのですが、実際お会いした学芸員の方はそのイメージよりもはるかに多様な仕事をしており、自分の中での学芸員のイメージが改められました。また、その仕事の一部を体験する事により、学芸員としてだけではなく、社会人としても生かしていける様々な経験をしました。どのような道に進むとしてもこの経験は一生の経験になると思います。



データ編



平成24年度 資格課程履修者数

	学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計
			1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	
教 職	経 済	経 済	48	7	36	6	29	2	29	15	142	30	172
		国 際 経 済	6	—	15	—	5	—	11	—	37	—	37
	法	法 律	41	10	30	11	29	4	13	5	113	30	143
		政 治	11	—	24	—	10	—	4	—	49	—	49
	経 営	経 営	42	—	53	—	33	—	19	—	147	—	147
		商 業	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	24	6	34	2	27	3	25	12	110	23	133
		会 計	3	—	9	—	2	—	5	—	19	—	19
	文	日 本 語 日 本 文	—	—	—	—	—	—	44	—	44	—	44
		日 本 語	28	—	24	—	19	—	—	—	71	—	71
		日 本 文 学 文 化	30	—	27	—	26	—	—	—	83	—	83
		英 語 英 米 文	42	—	45	—	26	—	22	—	135	—	135
		人 文	—	—	—	—	1	—	49	—	50	—	50
		哲 学	8	—	9	—	11	—	—	—	28	—	28
		歴 史	50	—	50	—	33	—	—	—	133	—	133
		環 境 地 理	16	—	5	—	2	—	—	—	23	—	23
		人 文 ・ ジ ャ ー ナ リ ズ ム	14	—	10	—	8	—	—	—	32	—	32
		心 理	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	2
ネットワーク情報	ネットワーク情報	20	—	31	—	17	—	21	—	89	—	89	
	心 理	4	—	4	—	5	—	—	—	13	—	13	
人 間 科	社 会	8	—	7	—	18	—	—	—	33	—	33	
	学 院	11	—	—	—	—	—	—	—	11	—	11	
大 目 等	履 修 生	—	22	—	—	—	—	—	—	—	22	22	
小 合	計	406	45	413	19	301	9	245	32	1,365	105	1,470	

学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計	
	学 科	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部		
司 書	経 済	経 済	2	—	2	2	3	2	7	9	14	13	27
		国 際 経 済	—	—	2	—	5	—	2	—	9	—	9
	法	法 律	9	2	9	2	11	7	7	6	36	17	53
		政 治	3	—	6	—	3	—	1	—	13	—	13
	経 営	経 営	2	—	—	—	—	—	3	—	5	—	5
		商 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1	1	2	2	8	—	4	4	15	7	22
		会 計	—	—	3	—	2	—	—	—	5	—	5
	文	日 本 語 日 本 文	—	—	—	—	—	—	43	—	43	—	43
		日 本 語	10	—	18	—	9	—	—	—	37	—	37
		日 本 文 学 文 化	40	—	41	—	28	—	—	—	109	—	109
		英 語 英 米 文	4	—	1	—	10	—	3	—	18	—	18
		人 文	—	—	—	—	1	—	17	—	18	—	18
		哲 学	3	—	3	—	8	—	—	—	14	—	14
		歴 史	6	—	13	—	17	—	—	—	36	—	36
		環 境 地 理	1	—	1	—	3	—	—	—	5	—	5
		人 文 ・ ジ ャ ー ナ リ ズ ム	3	—	10	—	2	—	—	—	15	—	15
		心 理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ネットワーク情報	ネットワーク情報	5	—	4	—	7	—	6	—	22	—	22	
人 間 科	心 理	2	—	2	—	4	—	—	—	8	—	8	
	社 会	3	—	4	—	7	—	—	—	14	—	14	
学 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	大 目 等	履 修 生	—	6	—	—	—	—	—	—	6	6	
小 合 計	計	94	9	121	6	128	9	93	19	436	43	479	

学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計	
	学 科	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部		
司 書 教 諭	経 済	経 済	1	—	1	—	1	—	—	—	3	—	3
		国 際 経 済	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	法	法 律	—	—	—	1	1	1	5	—	6	2	8
		政 治	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1
	経 営	経 営	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		商 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	1	—	1	—	—	2	2	2	4
		会 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	文	日 本 語 日 本 文	—	—	—	—	—	—	7	—	7	—	7
		日 本 語	4	—	5	—	1	—	—	—	10	—	10
		日 本 文 学 文 化	4	—	8	—	4	—	—	—	16	—	16
		英 語 英 米 文	—	—	—	—	1	—	1	—	2	—	2
		人 文	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		哲 学	1	—	—	—	1	—	—	—	2	—	2
		歴 史	—	—	5	—	4	—	—	—	9	—	9
		環 境 地 理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	人 間 科	人 文 ・ ジ ャ ー ナ リ ズ ム	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	1
		心 理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大 目 等	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	—	—	2	—	2	—	1	—	5	—	5	
	心 理	—	—	2	—	—	—	—	—	2	—	2	
小 合	社 会	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	1	
	学 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小 合	履 修 生	—	2	—	—	—	—	—	—	—	2	2	
	計	10	2	25	1	17	1	15	2	67	6	73	
小 合 計		12		26		18		17		73		73	

学 芸 員	学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計
		学 科	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	
	経 済	経 済	1	—	3	4	3	1	2	1	9	6	15
		国 際 経 済	1	—	—	—	1	—	—	—	2	—	2
	法	法 律	1	—	2	2	1	1	1	1	5	4	9
		政 治	—	—	1	—	2	—	1	—	4	—	4
	経 営	経 営	1	—	—	—	1	—	—	—	2	—	2
		商 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	2	—	2	1	—	1	—	1	4	3	7
		会 計	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
	文	日 本 語 日 本 文	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		日 本 語	2	—	3	—	2	—	—	—	7	—	7
		日 本 文 学 文 化	5	—	7	—	6	—	—	—	18	—	18
		英 語 英 米 文	1	—	—	—	3	—	—	—	4	—	4
		人 文	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	2
		哲 学	7	—	6	—	11	—	—	—	24	—	24
		歴 史	23	—	18	—	33	—	—	—	74	—	74
		環 境 地 理	4	—	5	—	1	—	—	—	10	—	10
		人 文 ・ ジ ャ ー ナ リ ズ ム	3	—	5	—	9	—	—	—	17	—	17
		心 理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ネットワーク情報	ネットワーク情報	1	—	1	—	1	—	—	—	3	—	3	
	心 理	1	—	—	—	1	—	—	—	2	—	2	
人 間 科	社 会	4	—	3	—	2	—	—	—	9	—	9	
	学 院	3	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3	
大 目 等	履 修 生	—	2	—	—	—	—	—	—	—	2	2	
小 合 計	計	61	2	56	7	77	3	6	3	200	15	215	
		63		63	7	80		9		215			

平成24年度 教員免許状取得状況一覧

	免許種別	中学一種				高校一種							中学専修				高校専修					合計						
		社会	国語	英語	数学	小計	地理歴史	公民	情報	商業	国語	書道	英語	数学	小計	社会	国語	英語	小計	地理歴史	公民		商業	国語	英語	情報	小計	
生田	一部	経済学科	14				14	23	17		1				41												55	
		授与件数	12				12	17	14		1				32												44	
		国際経済学科	8				8	4	4						8												16	
		授与件数	4				4	3	3						6												10	
		経営学科	8				8		10	1	3				14												22	
		授与件数	5				5	5	5	1	3				9												14	
		商業学科					0	0							0												0	
		授与件数					0								0												0	
		マーケティング学科	8				8	9	8	2	13				32												40	
		授与件数	7				7	7	7	1	12				27												34	
		会計学科					—					3			3													3
		授与件数					—				3				3													3
		日本語日本文学科					34								34													83
		授与件数					31								45													76
		英語英米文学科					16								19													35
		授与件数					14								18													32
神田	一部	人文学科	29			29	35	21						56													85	
		授与件数	26			26	28	19						47													73	
		心理学科	1				1	1	2					2													3	
		授与件数	1				1	1	2					2													3	
		ネットワーク情報学科					4	4		3				6	9												13	
		授与件数					3			1				4	5												8	
		経済学					—								—												0	
		授与件数					—								—												0	
		経営学					—								—												1	
		授与件数					—								—												1	
		商学					—								—												0	
		授与件数					—								—												0	
		文学					—								—												0	
		授与件数					—								—												0	
		小計	68	34	16	4	122	71	62	6	20	44	5	19	6	233	3	2	2	2	0	1	2	2	2	0	10	372
		授与件数	55	31	14	3	103	55	50	3	19	40	5	18	4	194	3	2	2	2	0	1	2	2	2	0	9	313
神田	一部	法学科	4			4	6	7						13												17		
		授与件数	4				4	5	7					12												16		
		政治学科	2				2	2	3					5	5											7		
		授与件数	2				2	2	3					5	5											7		
	二部	経済学科	4				4	3	2						5											9		
		授与件数	4				4	3	2						5											9		
		法学科	2				2	2	3						5											7		
		授与件数	2				2	2	3						5											7		
	二部	商業学科	2				2	1	3						4											6		
		授与件数	2				2	1	3						4											6		
		マーケティング学科					0								0											0		
		授与件数					0								0											0		
	研究科	法学					—								—											0	0	
		授与件数					—								—											0	0	
		経済学					—								—											0	0	
		授与件数					—								—											0	0	
研究科	商学					—								—											0	0		
	授与件数					—								—											0	0		
	科目等履修生	8		2		10	7	6		1			3	17											0	27		
	授与件数	8		2		10	7	6		1			3	17											0	27		
小計	申請件数	23	0	2	0	25	23	24	0	1	0	0	3	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	76		
	授与件数	23	0	2	0	25	20	24	0	1	0	0	3	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73		
	申請件数	91	34	18	4	147	94	86	6	21	44	5	22	6	284	3	2	2	7	5	0	1	2	2	0	448		
	授与件数	78	31	16	3	128	75	74	3	20	40	5	21	4	242	3	2	2	7	4	0	1	2	2	0	386		

平成24年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
北海道・東北	北海道	白樺学園高等学校	情 報	経 営	経 営	
	北海道	室蘭大谷高等学校	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	北海道	北海道札幌手稲高等学校	英 語	文	英語・英米文	
	宮城県	宮城県石巻高等学校	英 語	文	英語・英米文	
	宮城県	宮城県仙台東高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	秋田県	秋田県立秋田中央高等学校	公 民	経 営	経 営	
	山形県	山形市立商業高等学校	商 業	商	会計	
	福島県	郡山市立郡山第二中学校	社 会	経 済	経 済	
	福島県	福島県立若松商業高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	福島県	日本大学東北高等学校	国 語	文	日本語・日文	日本語学
	福島県	福島県立安積高等学校	国 語	文	日本語・日文	日本語学
	福島県	福島県立磐城高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	福島県	郡山市立緑ヶ丘中学校	数 学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
関東・東	茨城県	桜川市立大和中学校	社 会	経 済	国際経済	
	茨城県	水戸啓明高等学校	公 民	経 営	経 営	
	茨城県	茨城県立水戸商業高等学校	商 業	商	マーケティング	
	茨城県	茨城県立勝田高等学校	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	茨城県	鹿嶋市立鹿島中学校	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	茨城県	日立市立滑川中学校	社 会	文	人文	社会学
	茨城県	若溪学園中学校・高等学校	社会・公民	文学研究科		哲学
	茨城県	茨城県立鉾田第一高等学校	地理歴史・公民	文学研究科		歴史学
	栃木県	栃木県立小山高等学校	地理歴史	経 済	経 済	
	栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	商 業	商	マーケティング	
	栃木県	矢板市立矢板中学校	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	栃木県	那須町立那須中学校	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	栃木県	宇都宮市立星ヶ丘中学校	社 会	文	人文	歴史学
	群馬県	関東学園大学附属高等学校	公 民	経 営	経 営	
	群馬県	利根沼田学校組合立利根商業高等学校	商 業	商	マーケティング	
	群馬県	館林市立第三中学校	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	群馬県	高崎市立群馬南中学校	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	群馬県	前橋育英高等学校	英 語	文	英語・英米文	
	群馬県	高崎市立高崎経済大学附属高等学校	英 語	文	英語・英米文	
	群馬県	みなかみ町立新治中学校	英 語	文	英語・英米文	
	埼玉県	鶴ヶ島市立藤中学校	社 会	経 済	経 済	
	埼玉県	さいたま市立宮原中学校	社 会	商	マーケティング	
	埼玉県	埼玉県立深谷商業高等学校	商 業	商	会計	
	埼玉県	さいたま市立春里中学校	国 語	文	日本語・日文	日本語学
	埼玉県	所沢市立小手指中学校	英 語	文	英語・英米文	
	埼玉県	松伏町立松伏第二中学校	社 会	文	人文	哲学生人間学
	埼玉県	埼玉県立不動岡高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	埼玉県	大宮開成高等学校	情 報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	匝瑳市立野栄中学校	社 会	経 済	経 済	
	千葉県	千葉日本大学第一高等学校	公 民	経 済	国際経済	
	千葉県	銚子市立銚子高等学校	地理歴史	経 済	国際経済	
	千葉県	千葉英和高等学校	公 民	商	マーケティング	

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
関東・東	千葉県	東京学館浦安高等学校	国 語	文	日本語・日文	日本語学
	千葉県	香取市立佐原中学校	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	千葉県	志学館高等部	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	千葉県	成田高等学校	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	千葉県	柏日体高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	千葉県	千葉県立館山総合高等学校	数 学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	聖徳学園中学・高等学校	社 会	経 済	経 済	
	東京都	朋優学院高等学校	地理歴史	経 済	経 済	
	東京都	東京都立日野台高等学校	地理歴史	経 済	経 済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経 済	経 済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経 済	経 済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経 済	経 済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経 済	経 済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経 済	経 済	
	東京都	東京都立成瀬高等学校	地理歴史	経 済	経 済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経 済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	経 営	経 営	
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	経 営	経 営	
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	経 営	経 営	
	東京都	東京都立赤羽商業高等学校	商 業	商	マーケティング	
	東京都	東京都立三田高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	東京都	専修大学附属高等学校	国 語	文	日本語・日文	日本語学
	東京都	東京都立南多摩中等教育学校	国 語	文	日本語・日文	日本語学
	東京都	東京都立成瀬高等学校	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	東京都	清瀬市立清瀬第二中学校	国 語	文	日本語・日文	日本文学文化
	東京都	東京都立東大和南高等学校	英 語	文	英語・英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英 語	文	英語・英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英 語	文	英語・英米文	
	東京都	三鷹市立第六中学校	英 語	文	英語・英米文	
	東京都	町田市立南中学校	英 語	文	英語・英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	文	人文	社会学
	東京都	東京都立雪谷高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	東京都立三鷹高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	高輪中学・高等学校	社会・地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	青梅市立泉中学校	社 会	文	人文	歴史学
	東京都	渋谷区立本町学園中学校	社 会	文	人文	歴史学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	東京都立東大和高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	東京都立町田高等学校	公 民	文	人文	社会学
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	文	心理	
	東京都	青梅市立第六中学校	社 会	文	心理	
	東京都	駒沢学園女子中学・高等学校	数 学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	数 学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	東京都立松原高等学校	情 報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	川崎市立中原中学校	社 会	経 済	経 済	

平成24年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	神奈川県	湘南工科大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立旭高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	武相高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立上溝南高等学校	地理歴史・公民	経済	国際経済	
	神奈川県	横浜市立名瀬中学校	社会	経営	経営	
	神奈川県	横浜市立横浜商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	神奈川県	桐蔭学園高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	神奈川県	横浜市立恩田小学校	全科	商	マーケティング	
	神奈川県	神奈川県立大和高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	神奈川県	神奈川県立座間高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	二宮町立二宮中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	川崎市立東高津中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	神奈川県立藤沢西高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	川崎市立南加瀬中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	藤沢市立湘南台中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立横須賀大津高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	横須賀市立横須賀総合高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立相模大野高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	向上高等学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	神奈川県立大和高等学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	湘南学園高等学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	藤嶺学園藤沢高等学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	横浜隼人中学・高等学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	川崎市立菅中学校	社会	文	人文	哲学生人学
	神奈川県	神奈川県立大井高等学校	地理歴史	文	人文	哲学生人学
	神奈川県	横浜市立南希望が丘中学校	社会	文	人文	哲学生人学
	神奈川県	桐蔭学園高等学校	公民	文	人文	哲学生人学
	神奈川県	藤沢市立秋葉台中学校	社会	文	人文	哲学生人学
	神奈川県	二宮町立二宮中学校	社会	文	人文	哲学生人学
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	立花学園高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立旭高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立橋本高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立大船高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	自修館中等教育学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	横浜高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立秦野高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	神奈川県	海老名市立有馬中学校	社会	文	人文	環境地理学
	神奈川県	神奈川県立横浜平沼高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	神奈川県	川崎市立田島中学校	社会	文	人文	社会学
	神奈川県	フェリス学院中学校・高等学校	社会	文	人文	社会学
	神奈川県	横浜市立もえぎ野中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	湘南工科大学附属高等学校	情報	経営学研究科		経営学
甲信越	新潟県	新潟県立村上桜ヶ丘高等学校	地理歴史	経済	経済	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
甲信越	新潟県	新潟県立高田北城高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	新潟県	魚沼市立小出中学校	社会	経済	国際経済	
	新潟県	新潟県立新発田商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	新潟県	佐渡市立畑野中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	新潟県	新潟市立上山中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	新潟県	新潟清心女子高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	山梨県	山梨県立日川高等学校	公民	経済	経済	
	山梨県	山梨県立上野原高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	山梨県	駿台甲府高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	長野県	長野県赤穂高等学校	商業	商	マーケティング	
	長野県	長野県屋代高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	長野県	下諏訪町立下諏訪中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	長野県	長野県伊那弥生ヶ丘高等学校	英語	文	英語・英米文	
	富山県	富山県立滑川高等学校	公民	経済	経済	
	富山県	黒部市立桜井中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
北陸	石川県	石川県立金沢伏見高等学校	公民	商	マーケティング	
	石川県	小松市立南都中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	岐阜県	岐阜県立斐太高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	静岡県	静岡市立大里中学校	社会	経済	経済	
	静岡県	静岡市立高松中学校	社会	経営	経営	
	静岡県	静岡県立天竜林業高等学校	商業	商	マーケティング	
	静岡県	静岡県立島田商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	静岡県	静岡市立東豊田中学校	国語	文	日本語・日本文学	日本語学
	静岡県	富士市立田子浦中学校	英語	文	英語・英米文	
	静岡県	静岡県立浜名高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	静岡県	清水町立南中学校	社会	文	人文	歴史学
	静岡県	裾野市立東中学校	社会	文	人文	歴史学
	静岡県	静岡市立東中学校	社会	文	人文	歴史学
	静岡県	富士市立吉原第一中学校	社会	文	人文	環境地理学
	愛知県	東浦町立北部中学校	社会	経済	国際経済	
	三重県	三重県立津工業高等学校	地理歴史	経済	経済	
近畿	京都府	京都学園高等学校	公民	商	マーケティング	
	兵庫県	報徳学園高等学校	公民	経営	経営	
	奈良県	天理高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	山口県	山口県立宇部商業高等学校	商業	経営	経営	
	香川県	香川県立高松商業高等学校	商業	商	会計	
	高知県	高知学芸中学・高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
中国四国	福岡県	福岡舞鶴高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	佐賀県	佐賀県立佐賀東高等学校	公民	経済	経済	
	長崎県	長崎県立佐世保北高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	熊本県	専修大学玉名高等学校	地理歴史	経済	経済	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	公民	経済	経済	
	大分県	大分市立滝尾中学校	社会	経済	国際経済	
	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校	公民	経済	経済	
	鹿児島県	鹿児島市立鹿児島商業高等学校	商業	商	マーケティング	
九州・沖縄	福岡県	福岡舞鶴高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	佐賀県	佐賀県立佐賀東高等学校	公民	経済	経済	
	長崎県	長崎県立佐世保北高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	熊本県	専修大学玉名高等学校	地理歴史	経済	経済	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	公民	経済	経済	
	大分県	大分市立滝尾中学校	社会	経済	国際経済	
	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校	公民	経済	経済	
	鹿児島県	鹿児島市立鹿児島商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	福岡県	福岡舞鶴高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	佐賀県	佐賀県立佐賀東高等学校	公民	経済	経済	
	長崎県	長崎県立佐世保北高等学校	国語	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	熊本県	専修大学玉名高等学校	地理歴史	経済	経済	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	公民	経済	経済	
	大分県	大分市立滝尾中学校	社会	経済	国際経済	
	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校	公民	経済	経済	
	鹿児島県	鹿児島市立鹿児島商業高等学校	商業	商	マーケティング	

データ編

Pano a Pano

平成24年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習校名	実習科目	実習学生	
				学部	学科
東北	宮城県	仙台市立高砂中学校	社会	法	法律
	東京都	専修大学付属高等学校	地理歴史	法	法律
関東	東京都	専修大学付属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学付属高等学校	公民	法	法律
	神奈川県	清泉女学院中学高等学校	社会	法	政治

	所在地	実習校名	実習科目	実習学生	
				学部	学科
関東	千葉県	千葉市立高洲第一中学校	社会	法	政治
	千葉県	千葉敬愛高等学校	公民(現社)	法	政治
東海四国九州	静岡県	静岡県立清水東高等学校	地歴	法	法律
	愛媛県	済美高等学校	公民	法	法律
	熊本県	九州学院高等学校	地歴	法	法律

平成24年度 教育実習先一覧（二部）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	秋田県	潟上市立羽城中学校	社会	経済	経済
	宮城県	宮城県一迫商業高等学校	公民	商	マーケティング
関東	茨城県	桜川市立岩瀬中学校	社会	経済	経済
	茨城県	茨城県立勝田高等学校	地理歴史	法	法律
	茨城県	那珂市立第四中学校	社会	商	マーケティング
	群馬県	片品村立片品中学校	英語	科目等履修生	
	群馬県	渋川市立古巻中学校	社会	科目等履修生	
	埼玉県	朝霞市立朝霞第一中学校	社会	経済	経済
	埼玉県	城北埼玉中学・高等学校	地理歴史	商	マーケティング
	埼玉県	東松山市立東中学校	社会	科目等履修生	
東	千葉県	千葉県立検見川高等学校	公民	商	マーケティング

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生	
				学 部	学 科
関 東	千葉県	柏市立中原中学校	社 会	科目等履修生	
	東京都	足立区立東島根中学校	社 会	法	法律
	東京都	東京学芸大学附属世田谷中学校	社 会	商	マーケティング
	東京都	実践学園中学・高等学校	社 会	科目等履修生	
	東京都	国分寺市立第一中学校	英 語	科目等履修生	
	東京都	大田区立大森第一中学校	英 語	科目等履修生	
	東京都	東京都立大学等々力中学校・高等学校	社 会	科目等履修生	
	神奈川県	神奈川県立城山高等学校	公 民	経済	経済
	神奈川県	横浜市立大綱中学校	社 会	科目等履修生	
	北 陸	富山県	富山市立岩瀬中学校	社 会	経済

平成24年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	群馬県	高崎市立中央図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	埼玉県	北本市立中央図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	千葉県	船橋市中央図書館	法	法律	
	東京都	足立区立中央図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	日本点字図書館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	横浜市金沢図書館	経済	経済	
	神奈川県	専修大学図書館	法	法律	
	神奈川県	座間市立図書館	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	専修大学図書館	文	人文	哲学人間学
	静岡県	富士市立中央図書館	文	日本語日本文	日本文学文化

平成24年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
北海道	北海道	野外博物館 北海道開拓の村	文	哲	
関東	秋田県	本荘郷土資料館	文	歴史	
	秋田県	秋田県立博物館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	福島県	郡山市立美術館	経済	経済	
	福島県	若松城天守閣郷土博物館	文	歴史	
	福島県	吉田富三記念館	文	歴史	
関東	茨城県	常陸大宮市歴史民俗資料館	文	哲	
	茨城県	水戸市立博物館	文	歴史	
	茨城県	古河歴史博物館	文	歴史	
	茨城県	日立市郷土博物館	文	文・学・芸術	
	群馬県	高崎市美術館	経済	国際経済	
	群馬県	群馬県立自然史博物館	法	法律	
	群馬県	高崎市歴史民俗資料館	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県立文書館	法	法律	
	埼玉県	さいたま市青少年宇宙科学館	商	マーケティング	
	埼玉県	行田市郷土博物館	文	人文	哲学人間学
	埼玉県	埼玉県立川の博物館	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県立さきたま史跡の博物館	文	歴史	
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	法	法律	
	千葉県	千葉県茂原市立美術館・郷土資料館	文	歴史	
	東京都	多摩動物公園	経済	経済	
	東京都	科学技術館	経済	経済	
	東京都	日本民藝館	文	日本文学文化	
	東京都	東京都神代植物公園	文	日本文学文化	
	東京都	恩賜上野動物園	文	日本文学文化	
	東京都	進化生物学研究所	文	哲	
	東京都	渋谷区立松濤美術館	文	哲	
	東京都	江戸川区立自然動物園	文	哲	
	東京都	足立区立郷土博物館	文	哲	
	東京都	江東区中川船番所資料館	文	歴史	
	東京都	弥生美術館・竹久夢二美術館	文	歴史	
	東京都	中野区立歴史民俗資料館	文	歴史	
	東京都	秩父宮記念スポーツ博物館	文	歴史	
	東京都	大田区立郷土博物館	文	歴史	
	東京都	町田市立自由民権資料館	文	歴史	
	東京都	家具の博物館	文	歴史	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	古代オリエント博物館	文	歴史	
	東京都	日本カメラ博物館	文	文・学・芸術	
	東京都	日野市郷土資料館	人間科	社会	
	東京都	八王子市郷土資料館	人間科	社会	
	東京都	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	文学研究科		歴史学
	東京都	通信総合博物館	文学研究科		歴史学
	神奈川県	相模原市立相模川ふれあい科学館	経済	経済	
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	日本文学文化	
	神奈川県	相模原市立博物館	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	文	哲	
	神奈川県	カスヤの森現代美術館	文	哲	
	神奈川県	電車とバスの博物館	文	哲	
	神奈川県	すどう美術館	文	歴史	
	神奈川県	つる舞の里歴史資料館	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立公文書館	文	歴史	
関東	神奈川県	神奈川県立神奈川近代文学館	文	歴史	
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	歴史	
	神奈川県	シルク博物館	文	環境地理	
	神奈川県	逗子市郷土資料館	文	文・学・芸術	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	文・学・芸術	
	神奈川県	伊勢原市子ども科学館	文	文・学・芸術	
	神奈川県	神奈川県立歴史博物館	文学研究科		歴史学
	神奈川県	横浜都市発展記念館	科目等履修生		
甲信越	新潟県	新潟市新津美術館	経済	経済	
	新潟県	新潟県立自然科学館	文	日本語	
	新潟県	新潟市歴史博物館	文	歴史	
	新潟県	長岡市立科学博物館	文	歴史	
	山梨県	山梨県立博物館	文	歴史	
	長野県	大町市文化財センター	文	歴史	
	長野県	千曲市森將軍塚古墳館	文	歴史	
	長野県	長野県立歴史館	文	歴史	
	長野県	飯田市美術館	文	文・学・芸術	
	富山県	射水市大島絵本館	文	日本語	
北陸	石川県	金沢21世紀美術館	文	文・学・芸術	
	静岡県	浜松市博物館	文	歴史	
	静岡県	浜松市博物館	人間科	心理	
	山口県	中原中也記念館	法	政治	

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 20 年 度	平13 経済・経済	茨城県教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平13 経済・経済	川崎市教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平20 経済・経済	埼玉県立和光国際高等学校	期 限 付	情 報
	平18 経済・国際経済	相模原市立大沢中学校	非 常 勤	社 会
	平18 経済・国際経済	名古屋市教育委員会（小学校）	非 常 勤	全 科
	平13 法・法律	足立区教育委員会（小学校）	専 任	全 科
	平18 法・法律	豊科町立豊科北中学校	非 常 勤	社 会
	平19 法・法律	国分寺市立第七小学校	専 任	全 科
	平19 法・法律	東京都教育委員会（小学校）	期 限 付	全 科
	平20 法・法律	富山県立富山商業高等学校	非 常 勤	公 民
	平17 経営・経営	埼玉県立小鹿野高等学校	専 任	情 報
	平20 経営・経営	学校法人美作学園（岡山県作陽高等学校）	非 常 勤	情 報
	平20 経営・経営	学校法人常総学院（常総学院高等学校）	常 勤	情 報
	平20 商・商業	倉敷市立真備陵南高等学校	常 勤	情報・商業
	平18 商・商業	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学高等学校）	非 常 勤	公 民
	平20 商・会計	学校法人鎌形学園（東京学館船橋高等学校）	非 常 勤	商 業
	平10 文・人文	東京都教育委員会（中学校・高等学校）	専 任	社 会
	平17 文・人文	専修大学附属高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平18 文・人文	学校法人大妻学院（大妻女子大学附属中・高等学校）	専 任	地 理 歴 史
	平20 文・人文	市原市立八幡小学校	非 常 勤	小 学 校
	平17 文・日本語日本文	守山市立小津小学校	専 任	全 科
	平20 文・日本語日本文	八戸市立下長中学校	常 勤	中 学 校
	平20 文・日本語日本文	広島市立中広中学校	非 常 勤	国 語
	平18 文・英語英米文	東京都教育委員会（小学校）	専 任	全 科
	平18 文・英語英米文	新発田市立第一中学校	専 任	英 語
	平18 文・英語英米文	山武市立蓮沼中学校	専 任	英 語
	平18 文・英語英米文	東京都立練馬工業高等学校	専 任	英 語
	平20 文・英語英米文	豊橋市立東陽中学校	常 勤	英 語
	平20 文・英語英米文	神奈川県立白山高等学校	非 常 勤	英 語
	平20 文・英語英米文	山武市立北小学校	非 常 勤	英 語
	平20 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	情 報
	平20 院経営・修士	学校法人帝京学園（帝京中学・高等学校）	非 常 勤	情 報
	平20 院商・修士	学校法人藤嶺学園（藤沢翔陵高等学校）	専 任	情報・商業
	平18 院文・修士	専修大学附属高等学校	専 任	英 語
	平20 院文・修士	専修大学附属高等学校	非 常 勤	公 民
	平20 院文・修士	学校法人東京女子学園（東京女子学園中学・高等学校）	常 勤	国 語
	平20 院文・修士	学校法人相模女子大学（相模女子大学中学部・高等部）	専 任	国 語
	平20 院文・修士	南足柄市立南足柄中学校	非 常 勤	特 別 支 援
平成 21 年 度	平21 経済・経済	柏市立豊四季中学校	専 任	社 会
	平21 経済・経済	厚木市立第二小学校	常 勤	全 科
	平18 経済・国際経済	名古屋市教育委員会（小学校）	専 任	全 科
	平21 経済・国際経済	日高市立高根小学校	専 任	全 科
	平13 法・法律	東京都教育委員会（中学校・高等学校）	専 任	社 会
	平21 法・法律	笛吹市立浅川中学校	非 常 勤	社 会
	平21 商・会計	学校法人中央学院大学（中央学院大学中央高等学校）	非 常 勤	商 業
	平18 文・英語英米文	東京都立上水高等学校	専 任	英 語
	平20 文・英語英米文	埼玉県教育委員会（中学校）	専 任	英 語
	平21 文・英語英米文	草加市立花栗中学校	期 限 付	英 語

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 21 年 度	平21 文・英語英米文	朝霞市立第一中学校	専 任	英 語
	平21 文・英語英米文	砺波市立庄川中学校	専 任	英 語
	平 9 文・人文	神奈川県教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平16 文・人文	神奈川県教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平17 文・人文	海老名市立柏ヶ谷中学校	専 任	社 会
	平19 文・人文	仙台市立田子中学校	常 勤	社 会
	平19 文・人文	横浜市立獅子ヶ谷小学校	専 任	全 科
	平20 文・人文	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	臨時的任用	地 理 歴 史
	平21 文・人文	鳥取市立宮ノ下小学校	常 勤	全 科
	平21 文・人文	横浜市立嶮山小学校	専 任	全 科
	平18 文・日本語日本文	東京都立王子特別支援学校	専 任	国 語
	平21 文・日本語日本文	学校法人東京文理学院高等部	常 勤	国 語
	平21 文・日本語日本文	渋谷区立広尾中学校	専 任	国 語
	平21 文・日本語日本文	福島県立塙工業高等学校	月手当講師	国 語
	平21 文・心理	川島町立小見野小学校 川島町立ハッ保小学校 川島町立三保谷小学校 川島町立出丸小学校	非 常 勤	
	平19 院文・修士	相模原市立大野南中学校	専 任	英 語
	平21 院文・修士	座間市立相模中学校	専 任	英 語
	平20 経営・経営	埼玉県立伊奈学園総合高等学校 埼玉県立和光高等学校	非 常 勤	情 報
	平20 経営・経営	学校法人聖徳学園（聖徳学園中学・高等学校）	非 常 勤	数 学
平成 22 年 度	平15 法・法律	小山市立間々田小学校	専 任	全 科
	平22 法・政治	学校法人中央学院（中央学院大学中央高等学校）	非 常 勤	
	平20 経営・経営	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	非 常 勤	数学・情報
	平22 経営・経営	専修大学松戸高等学校	非 常 勤	情 報
	平17 商・商業	神奈川県立相原高等学校	常 勤	商 業
	平22 商・マーケティング	横浜市立富士見中学校	非 常 勤	社 会
	平22 商・会計	岐阜県立岐阜商業高等学校	常 勤	商 業
	平14 文・国文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	英 語
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立厚木北高等学校	常勤期限付	国 語
	平22 文・日本語日本文	学校法人麹町学園（麹町学園女子中学・高等学校）	常 勤	国 語
	平22 文・日本語日本文	専修大学玉名高等学校	常 勤	国 語
	平22 文・日本語日本文	学校法人明星学苑（明星中学高等学校）	非 常 勤	国 語
	平22 文・日本語日本文	学校法人翔英学園（米子北高等学校）	非 常 勤	国 語
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立高等学校	常勤臨時的任用	国 語
	平22 文・英語英米文	岐阜県立益田清風高等学校	常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	相模原市立二本松小学校	非 常 勤	全 科
	平22 文・英語英米文	学校法人明德学園（相洋中学校・相洋高等学校）	非 常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	横浜市立大曽根小学校	専 任	全 科
	平22 文・英語英米文	学校法人国本学園（国本女子高等学校）	非 常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	山梨県立都留高等学校	非 常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人松韻学院（松栄高等学校）	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	英 語
	平19 文・人文	白井市立南山中学校	専 任	社 会
	平21 文・人文	米子市立住吉小学校	専 任	全 科
	平22 文・人文	秋田県立横手清陵学院高等学校	常 勤	地 理 歴 史
	平21 ネットワーク情報・ネットワーク情報	柏崎市立柏崎小学校	産 休 代 理	全 科
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立三郷北高等学校	常勤期限付	数 学
	平22 院経営・修士	学校法人北鎌倉女子学園（北鎌倉女子学園中学校・高等学校）	非 常 勤	情 報

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成22年度	平22 院商・修士	東京都立浅草高等学校 東京都立大崎高等学校 東京都立八王子桑志高等学校 東京都立新宿山吹高等学校 東京都立葛飾ろう学校 東京都立篠崎高等学校 埼玉県立富士見高等学校	非 常 勤	商 業
	平22 院文・修士	学校法人川村学園（川村中学校・川村高等学校）	期 限 付	国 語
	平22 院文・修士	海老名市立大谷中学校	専 任	英 語
平成23年度	平20 経済・経済	埼玉県立坂戸西高等学校	専 任	情 報
	平21 経済・経済	東京都立清瀬特別支援学校	期 限 付	社 会
	平23 経済・経済	長野原町立西中学校	期 限 付 (マイタウンティーチャー)	
	平17 経営・経営	埼玉県立志木高等学校	専 任	情 報
	平17 商・商業	横浜市立戸塚高等学校	臨時的任用	地 理 歴 史
	平23 商・マーケティング	甲府市立甲府商業高等学校	期 限 付	商業・情報
	平22 文・日本語日本文	東京都立大崎高等学校	専 任	国 語
	平22 文・日本語日本文	川崎市立宮前平中学校	臨時的任用	国 語
	平23 文・日本語日本文	学校法人嘉悦学園（かえつ有明中学校・高等学校）	非 常 勤	国 語
	平23 文・日本語日本文	神奈川県立湘南高等学校	非 常 勤	国 語
	平23 文・日本語日本文	上田市立第五中学校	臨時的任用	国 語
	平23 文・日本語日本文	練馬区立南が丘中学校	期 限 付	国 語
	平23 文・日本語日本文	千葉県立館山総合高等学校	期 限 付	国 語
	平23 文・日本語日本文	学校法人錦城学園（錦城学園高等学校）	非 常 勤	国 語
	平23 文・日本語日本文	東京都立南平高等学校	常 勤	国 語
	平17 文・英語英米文	千葉県立松戸向陽高等学校	専 任	英 語
	平20 文・英語英米文	神奈川県立座間総合高等学校	専 任	英 語
	平21 文・英語英米文	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人豊昭学園（豊島学院高等学校）	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	神奈川県立相模原青陵高等学校	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人東海大学（東海大学付属高輪台高等学校）	非 常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	足立区立伊興中学校	期 限 付	英 語
	平23 文・英語英米文	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	横須賀市立横須賀総合高等学校	非 常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	習志野市立第四中学校	常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	学校法人松韻学園（福島高等学校）	常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	横須賀市立鴨居中学校	専 任	英 語
	平21 文・人文	横浜市立藤が丘小学校	専 任	全 科
	平23 文・人文	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平23 文・人文	君津市立周西小学校	指導補助教員	
	平23 文・人文	河内町立河内中学校	常 勤	社 会
	平18 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立北本高等学校	専 任	情 報
	平23 ネットワーク情報・ネットワーク情報	朝霞市立朝霞第五中学校	専 任	数 学
	平23 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立鶴見総合高等学校	専 任	情 報
	平19 院経営・修士	東京都立杉並総合高等学校	専 任	情 報
	平23 院文・修士	静岡県立伊東商業高等学校	専 任	英 語
	平23 院文・修士	神奈川県立釜利谷高等学校	臨時的任用	英 語
平成24年度	平21 経済・経済	厚木市立戸室小学校	専 任	全 科
	平21 経済・経済	東京都立清瀬特別支援学校	専 任	特支小全科
	平24 経済・経済	学校法人淑徳学園 淑徳SC 中等部・高等部	非 常 勤	社 会
	平24 経済・経済	鴨川市立鴨川中学校	臨時的任用	社 会
	平20 経済・国際経済	学校法人大乗淑徳学園（淑徳巣鴨中学高等学校）	常 勤	英 語

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 24 年 度	平23 法・法律	江東区立数矢小学校	専 任	全 科
	平23 法・法律	下妻市立下妻東部中学校	非 常 勤	社 会
	平23 法・法律	川口市立青木中央小学校	臨時的任用	全 科
	平24 法・法律	流山市立八木中学校	非 常 勤	社 会
	平24 法・法律	射水市立小杉中学校	臨時的任用	社 会
	平24 法・政治	横浜市立緑が丘中学校	専 任	社 会
	平24 法・政治	高崎市立中尾中学校	専 任	社 会
	平24 法・政治	宇都宮市立清原中学校	非 常 勤	社 会
	平21 経営・経営	足立区立洲江小学校	専 任	全 科
	平16 商・商業	学校法人佐野日本大学学園（佐野日本大学中等教育学校）	専 任	社 会
	平21 商・商業	船橋市立習志野台中学校	専 任	社 会
	平24 商・マーケティング	千葉市教育センター	家庭訪問相談員	全 科
	平24 商・会計	静岡県立相良高等学校	非 常 勤	商 業
	昭62・文・国文	神奈川県教育委員会	専 任	特支小全科
	平21 文・日本語日本文	日の出町立平井小学校	専 任	全 科
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立寒川高等学校	専 任	国 語
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	専 任	国 語
	平22 文・日本語日本文	川崎市立宮前平中学校	専 任	国 語
	平23 文・日本語日本文	神奈川県立大和南高等学校	専 任	国 語
	平23 文・日本語日本文	練馬区立南が丘中学校	専 任	国 語
	平24 文・日本語日本文	沼津市立大岡中学校	専 任	国 語
	平24 文・日本語日本文	町田市立小山田中学校	期 限 付	国 語
	平24 文・日本語日本文	君津市立八重原中学校	そ の 他 (指導補助教員)	
	平24 文・日本語日本文	学校法人加藤学園 加藤学園高等学校	非 常 勤	国 語
	平24 文・日本語日本文	新潟県立羽茂高等学校	常 勤	国 語
	平24 文・日本語日本文	長野県蟻ヶ崎高等学校 長野県松本美須々ヶ丘高等学校	非 常 勤	国 語
	平22 文・英語英米文	学校法人豊昭学園 豊島学院高等学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	神奈川県立山北高等学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	茨城県立盲学校	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	神栖市立波崎第三中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	横浜市立庄戸中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	学校法人矢野学園（八王子実践中学・高等学校）	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	学校法人富田学園 岐阜東中学校・高等学校	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	茅ヶ崎市立赤羽根中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	専修大学附属高等学校	非 常 勤	英 語
	平23 文・人文	千葉市立朝日ヶ丘中学校	専 任	社 会
	平24 文・人文	菊川市立菊川西中学校	専 任	社 会
	平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	千葉県立袖ヶ浦高等学校	専 任	情 報
	平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人玉川学園 玉川学園中・高等部	常 勤	数 学
	平24 院経済・修士	神奈川県立生田高等学校	非 常 勤	公 民
	平22 院経営・修士	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	専 任	情 報
	平24 院文・修士	学校法人早稲田高等学校 早稲田中学校	非 常 勤	社 会
	平24 院文・修士	神奈川県立平塚湘風高等学校	非 常 勤	国 語

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

勤 務 先	
信州大学附属図書館	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
大和市立図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
武蔵大学図書館	（株）雄松堂書店
東京大学法学部図書館	青山学院女子短期大学図書館
日外アソシエーツ（株）	国土館大学鶴川図書館
見附市立図書館（新潟県）	追手門学院大学附属図書館
（株）有隣堂	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
女子栄養大学図書館	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	神奈川県立川崎高等学校
東京医科大学図書館	東京都福祉商経専門学校図書館
杉並区中央図書館（東京都）	横須賀市立中央図書館
横浜市立図書館	三省堂書店
土木学会附属土木図書館	神奈川県立図書館
専修大学図書館	江東区立亀戸図書館
八街市立図書館（千葉県）	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
藤沢市総合市民図書館（神奈川県）	法政大学多摩図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県栗原市役所	逓信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武都市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工芸社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市歴史資料館	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館

平成24年度 資格課程年間行事表

課程		教 職 課 程		司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）※ 一部3月							
	中 旬	履 修 科 目 登 録 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
		介護等の体験事前オリエンテーション 実習希望校との内諾交渉	3・4 3						
5月	上 旬	介護等の体験事前講習会 教育実習事前ガイダンス 教育実習 （5月～11月）	3・4 4						
	下 旬	介護等の体験開始 （5月下旬～3月中旬）						館務実習事前ガイダンス	3・4
6月	上 旬	教育実習登録ガイダンス 教育実習内諾書の提出	3 3					博物館見学実習	3・4
	下 旬	教員免許状一括申請ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス（3年次 までに司書教諭の単位 をすべて修得した者）	4		
7月	上 旬							博物館実習（館務実習） （7月～9月）	3・4
	下 旬	前 期 試 験（全 学 年）							
8月		夏期休暇（8月上旬～9月中旬）							
		前 期 追 試 験（全 学 年）							
				図書館実習	4				
		夏 期 休 暇							
9月	下 旬	教員免許状授与申請書 確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次で司書教諭の科目を履修した者）	4		
10月	上 旬	教職公開講座	1～4					館務実習登録ガイダンス （第1回）	2・3
11月	上 旬							学芸員資格取得証明書交付 申請手続き	4
	下 旬	教育学会	1～4					館務実習登録ガイダンス （第2回）	2・3
12月	上 旬			司書課程就職 （進路）懇談会	1～4			実習希望博物館との内諾交渉	2・3
1月	中 旬	後 期 試 験（全 学 年）							
2月	中 旬	後 期 追 試 験（全 学 年）							
								館務実習承諾書の提出	2・3
3月	22日	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

平成24年度 教職公開講座開催結果

1. 開催日 平成24年10月6日(土)
2. 時間 13:30~17:25 (17:45~19:00反省・情報交換会)
3. 場所 生田校舎7号館(反省・情報交換会会場:シダックス(10号館4階))
4. 参加者数 139名
5. 内容

(1) 現職教員(専大OB)からの提言

(教員採用試験の内容・合格までの勉強方法および現職教員としての現在)

講師 (卒業年・学部・学科)	勤務先	科目
西本 光 先生 (平成23年3月 文学部 日本語日本文学科 卒業)	東京都立南平高等学校	国語
岩瀬 明日香 先生 (平成21年3月 文学研究科 英語英米文学専攻 修了)	座間市立相模中学校	英語
岩男 武 先生 (平成24年3月 法学部 政治学科 卒業)	横浜市立緑が丘中学校	社会
一ノ瀬 藤明 先生 (平成17年3月 商学部 商業学科 卒業)	佐野日本大学中等教育学校	公民
進士 勇介 先生 (平成22年3月 商学研究科 商学専攻 修了)	東京都立葛飾ろう学校	商業
眞山 和姫 先生 (平成24年3月 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 卒業)	千葉県立袖ヶ浦高等学校	情報
山口 亮 先生 (平成23年3月 法学部 法律学科 卒業)	江東区立数矢小学校	小学校
山口 哲生 先生 (平成21年3月 経営学部 経営学科 卒業)	足立区立洲江小学校	

(2) 求められる教員像と採用試験について

講師	川崎市教育委員会 教員採用担当課長 今 広道 先生
----	---------------------------

(3) タイムテーブル

時間	内容	場所
13:30~13:40 (10分)	開会の挨拶	702 教室
13:50~14:30 (40分)	現職教員からの提言① 国語 西本 光 先生 社会 岩男 武 先生 商業 進士 勇介 先生 小学校 山口 亮 先生	713 教室 712 教室 711 教室 714 教室
14:40~15:20 (40分)	現職教員からの提言② 英語 岩瀬 明日香 先生 公民 一ノ瀬 藤明 先生 情報 眞山 和姫 先生 小学校 山口 哲生 先生	713 教室 712 教室 711 教室 714 教室
15:30~16:00 (30分)	現職教員とのディスカッション 国語 西本 光 先生 英語 岩瀬 明日香 先生 社会 岩男 武 先生・公民 一ノ瀬 藤明 先生 商業 進士 勇介 先生・情報 眞山 和姫 先生 小学校 山口 亮 先生・山口 哲生 先生	725 教室 713 教室 712 教室 711 教室 714 教室
16:10~17:25 (75分)	求められる教師像と採用試験について 川崎市教育委員会 教員採用担当課長 今 広道 先生	702 教室
17:45~19:00	終了後、反省・情報交換会	シダックス (10号館4階)

平成24年度 司書課程就職（進路）懇談会開催結果

1. 開催日：平成24年12月8日（土）
2. 時間：15:00～16:30
3. 場所：神田校舎 771 教室（7号館）
4. ゲスト：鈴木 菜海さん（本学法学部4年生）
5. 参加者数：22名
6. 内容：今年度、私立大学図書館に内定した鈴木氏から、内定に至るまでの経緯とともに、複数の自治体の公務員試験（司書職採用）や国立大学法人等職員採用事務系（図書）の1次試験を合格した経験（準備、試験の内容、面接で聞かれたことなど）について具体的にお話いただいた。参加した学生からは、筆記試験に向けた学習時間や方法、専門試験（図書館学）に対応するための情報源、心構え等についての質問が出され、担当教員も交えて和やかに懇談が行われた。



平成24年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	矢吹 芳洋	公民科教育研究 1・2
経済学部	講 師	角田真紀子	心身の発達と学習の過程
法 学 部	教 授	広瀬 裕子	教育行政学
法 学 部	准 教 授	鈴木 秀光	法律学 a・b
法 学 部	准 教 授	森田 司郎	道德教育指導論
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育行政学
商 学 部	教 授	中野 育男	商業科教育研究 1・2
文 学 部	教 授	青山 高義	自然地理学概論 b
文 学 部	教 授	新井 勝紘	日本史 a・b
文 学 部	教 授	江崎 雄治	地理学 a・b
文 学 部	教 授	上原 秀明	人文地理学概論 a
文 学 部	教 授	大庭 健	倫理学 a・b
文 学 部	教 授	片桐 一彦	英語科教育研究 1・2
文 学 部	教 授	上村 妙子	英語科教育研究 3・4
文 学 部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教 授	小峰 直史	教職入門
文 学 部	教 授	仲川 恭司	書道科教育研究 1・2
文 学 部	教 授	貫 成人	哲学 a・b
文 学 部	教 授	廣瀬 玲子	中国文学講義 a・b
文 学 部	教 授	松尾 容孝	地誌学 a・b
文 学 部	准 教 授	苅谷 愛彦	自然地理学概論 a
ネットワーク情報学部	教 授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	講 師	望月 俊男	情報科教育研究 1・2
経済学部	兼任講師	斉藤 利彦	社会科教育研究 1・2
経済学部	兼任講師	種藤 博	社会科教育研究 1・2
経済学部	兼任講師	増田 純一	地理歴史科教育研究 1・2
法 学 部	兼任講師	荒井 明夫	社会科教育研究 1・2
法 学 部	兼任講師	飯塚 順子	教育方法論
法 学 部	兼任講師	高田 貴太	日本史 a・b
法 学 部	兼任講師	松村 芳明	法律学 a・b
法 学 部	兼任講師	宮崎 孝治	教育原論
法 学 部	兼任講師	森 美保子	教育相談の理論と方法
経営学部	兼任講師	伊東 洋一	情報と職業
経営学部	兼任講師	大和田雄一	教育原論
経営学部	兼任講師	杉田かおり	道德教育指導論
経営学部	兼任講師	田中マリア	道德教育指導論
商 学 部	兼任講師	泉 貴久	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	岩田 公夫	教職入門
商 学 部	兼任講師	神山 安弘	地理歴史科教育研究 1・2
商 学 部	兼任講師	小長野航太	倫理学 a・b
商 学 部	兼任講師	高崎 彰	生徒・進路指導論
商 学 部	兼任講師	田代 博	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論 a・b
商 学 部	兼任講師	正野 泰周	倫理学 a・b
商 学 部	兼任講師	三浦 朋子	社会科教育研究 3・4
文 学 部	兼任講師	大熊 徹	国語科教育研究 1・2

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文 学 部	兼任講師	岡 秀一	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	小林 克則	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	周藤新太郎	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	角田 清美	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	滝澤 武	英語科教育研究 1・2
文 学 部	兼任講師	田口 博子	宗教学 a・b
文 学 部	兼任講師	田中 禎昭	日本史 a・b
文 学 部	兼任講師	根本 欣哉	国語科教育研究 3・4
文 学 部	兼任講師	服部あさこ	教育社会学
文 学 部	兼任講師	村松 弘一	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	山下 直	国語科教育研究 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	飯塚 久男	教育方法論
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育研究 1・2

《司書・司書教諭》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	大曾根 匡	図書館情報技術論
文 学 部	教 授	荻原 幸子	図書館概論
文 学 部	准 教 授	野口 武悟	学校経営と学校図書館
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報メディアの活用
法 学 部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	中山美由紀	学校図書館メディアの構成
経営学部	兼任講師	廣澤 敏夫	図書館情報技術論
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	石原 眞理	図書館サービス論
文 学 部	兼任講師	太田 順子	専門資料論
文 学 部	兼任講師	汐崎 順子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	須賀 千絵	図書館経営論
文 学 部	兼任講師	鈴木 孝雄	コミュニケーション論
文 学 部	兼任講師	大作 光子	学校図書館メディアの構成
文 学 部	兼任講師	千代原真智子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	中川 恭一	図書館経営論
文 学 部	兼任講師	中島 玲子	情報検索演習
文 学 部	兼任講師	成松 一郎	資料特論
文 学 部	兼任講師	長谷川昭子	図書館サービス論

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	内田 欽三	博物館概論
文 学 部	准 教 授	高島 裕之	博物館実習

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

早いもので、再び編集後記を執筆する時期となりました。原稿をお寄せいただいた執筆者の皆様方には深く感謝申し上げます。また、資格課程の先生方、教務課の方々にも、多大なるご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

本号も引き続き、教職・司書・司書教諭、学芸員の各課程の在學生や卒業生等からの、たくさんの貴重なメッセージを収録した1冊となりましたので、資格課程受講生の皆さんには是非読んでいただきたいと思っています。本号だけでは物足りない、もっと読みたいという方には、資格課程のWebサイト http://www.senshu-u.ac.jp/sc_grsc/shikaku/annual_qc.html で、1999年に発行された1号から読むことができます。いずれの号からも、未だに色褪せない様々なメッセージを読み取ることができるはずです。どうぞご活用ください。

こうしている間にも、教師を目指している人、図書館や博物館で働くことを希望している人は、それぞれに準備を進めていることと思います。中には、いろいろと悩みが尽きないという人、迷っている人もいるのではないかと思います。「パッソ・ア・パッソ（一歩ずつ）」の刊行を通じて、そんな皆さんを資格課程の教職員が応援していることを、お知らせすることができれば幸いです。一人でも多くのみなさんが、希望を叶えられますように。

様々な現場で働く卒業生、附属高等学校の先生方、兼任講師の皆様には、お忙しいこととは存じますが、引き続き執筆のご協力をお願いいたします。本年報は依頼原稿を原則としておりますが、特に希望される場合には、編集委員にお知らせいただければ検討させていただきます。

新年度を迎え、心も新たに一層の努力を続けて行く所存ですので、今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

編集委員長

荻原 幸子

編集委員

広瀬 裕子

嶺井 正也

中野 育男

鐘ヶ江晴彦

野口 武悟

高島 裕之

平成24年度 専修大学

資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成25年4月1日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL http://www.senshu-u.ac.jp/sc_grsc/shikaku/

印刷 有限会社米田印刷

〒140-0002 東京都品川区東品川1-21-4

TEL 03-3474-9791



専修大学